

【作 品 図 録】

コッラード・ヴィーニの公共彫刻  
——全作品カタログ

甲 斐 教 行

コッラード・ヴィーニは1888年9月3日にフィレンツェで生まれた彫刻家である。金工家・彫刻師だった父ナターレ（1862-1942年）の助手として芸術修業を開始し<sup>1</sup>、1901年から05年までフィレンツェの美術研究所で、さらに1906年から1912年までフィレンツェ美術アカデミーのヌード自由教室で、アウグスト・パッサリアの指導下に学んだ<sup>2</sup>。短期間のパリ滞在ののち、リベロ・アンドレオッティの工房に通い、大きな影響を被る。1928年に《若きディアナ》によって第四回モンツァ国際展覧会金賞受賞、1933年に《座る女》によってカッラーラ全国彫刻コンクール国王賞を受賞し、評価を確立した<sup>3</sup>。とりわけイタロ・タヴォラートは、ヴィーニが他のいかなる彫刻家とも異なる独創的な存在であると認め、「理性と知性に支えられたイタリアの人文主義、表現と形態のトスカーナの純粋性である」と極めて高い評価を与えている<sup>4</sup>。

ヴィーニは1920年代から50年代まで、イタリア各地の公共建築や聖堂を飾る作品、記念碑・墓碑を数多く制作したが、ファシズム政体と分かちがたく結びついたこの時期の具象彫刻家の多くがそうであったように、戦後はごく近年まで本格的なヴィーニ研究がなされてこなかった。それは政治と芸術が複雑に絡み合ったこの困難な時期と対決する精神的・物理的準備が整っていなかったためでもある。ようやく2002年にクリスティーナ・シリガッティによって、フィレンツェの電力会社のため1933年頃制作された三点の擬人像が当時の女性擬人像流行の文脈に位置づけられ<sup>5</sup>、またヴィーニ晩年の教え子である画家フィオレンツォ・コベルティーニによりこの彫刻家に関する貴重な随想が出版されたものの<sup>6</sup>、ヴィーニの作品体系を総合的に論じたモノグラフはいまだに現れていない。

本稿はヴィーニの「公共彫刻」、すなわち、墓地、聖堂、劇場、公園、郵政庁舎、裁判庁舎、その他公共の場に常設される彫刻作品を、逸失作品も含めて初めてカタログ化し、図版とともに公刊することをめざしている。また《教皇ピウス十二世》胸像のように、委嘱主に公的・普遍的性格が強い作例も収録した。目録番号は原則として図版番号と一致させた。

今回は扱わなかったが、過去のモノグラフ等に取り上げられるなど、制作年代が明らかなヴィーニ作品が一定数存在する。ヴィーニの活動歴を把握するうえで有益なそれらの作品を以下に列挙してみる。《仮面》四点、1911-12年。《歩く少女》、テラコッタ、1922年。《少女胸像》、ブロンズ、1924年。《少女》、1926年。小品二点、1926年。擬人像《歓待》、ヴィチェンツァ石、1930年。《病み上がりの婦人》、1932年。《眠る女性》、1932年。《座る女》、カッラーラ、美術アカデミー、1933年。《聖母》浮彫、1933年。《サン・フレディアーノの少女》、1933年。《子鹿と少女裸像》、（ピアチェンティーニ邸噴水）、1934年以前。《円盤投げ》、1934年。《座る男》、1934年。《考える女》、1939年。《エッダ・チャーノ＝ムッソリーニ伯爵夫人》、大理石、1941年以前。

上記の作品のうち、《仮面》四点は、メダルド・ロッソの影響が顕著な初期作品である。《座る女》《サン・フレディアーノの少女》、《座る男》はヴィーニの代表作であり、特に《座る女》はカッラーラ全国彫刻コンクール国王賞を獲得した出世作である。《歓待》もモンツァ装飾

美術トリエンナーレ金賞受賞作で、ヴィッラの庭園を想定した作品だが<sup>7</sup>、特定の公的空間に設置された形跡を確認できなかった。《円盤投げ》はフォロ・ムッソリーニ用と記載する文献もあるが<sup>8</sup>、現在のフォロ・イタリコには該当作が存在せず、所蔵先も不明であり、公共性を確認できないため、今回は割愛した。

コッラード・ヴィーニは教育者としても確固たる足跡を残し、1939年より没年まで、リカーゾリ通りの美術アカデミー内の芸術高校（Liceo artistico）で彫刻を指導した<sup>9</sup>。同校は1963年までアカデミーと一体化した組織で、同一の建物内にあった。

ヴィーニは1956年5月5日にフィレンツェで没した。67歳であった。画家ジョヴァンニ・コラチッキが追悼文を記し<sup>10</sup>、フィレンツェのサン・ミニアート・アル・モンテ聖堂に隣接する、両親の眠るボルテ・サンテ墓地に埋葬された（参考図）。未亡人アンナレッタ（アンネッタ、アデライーデとも）・マルティネッリが残された。一人娘のシモネッタ（1917年生）は1946年に結婚後、英国に移住した<sup>11</sup>。

## 注

<sup>1</sup> V. Vicario, *Gli scultori italiani dal Neoclassicismo al Liberty*, Lodi 1994, 2, pp.1094-1095.

<sup>2</sup> A. P. Torresi, *Scultori d'Accademia – Dizionario biografico di maestri, allievi e soci dell'Accademia di Belle Arti di Firenze (1750-1915)*, Ferrara 2000, p.128.

<sup>3</sup> *X Biennale Internazionale Città di Carrara* etc., cat. della mostra, a cura di A. V. Laghi, Siena 2000, p.84.

<sup>4</sup> I. Tavolato, *Scultura di Corrado Vigni – XXI tavole e prefazione di Italo Tavolato*, Milano 1934, p.23. ヴィーニの同時代批評としては他に次の二点が重要である。F. Saponi, *Artisti d'oggi – Corrado Vigni e la giovane scultura italiana*, “Emporium”, 79, 1934, pp.130-142; M. Biancale, *La scultura di Corrado Vigni*, “Illustrazione italiana”, 13 aprile 1941, pp.528-530.

<sup>5</sup> C. Sirigatti, *Dee in pullover*, “Artista”, 2002, pp.60-77.

<sup>6</sup> F. Copertini, *Il risveglio – Ricordo dello scultore Corrado Vigni*, “Elba d'Arno”, 103, 2006, pp.55-61; F. Copertini Amati, *Per ville e per giardini (sorprese d'arte e archeologia alle porte di Firenze)*, “Elba d'Arno”, 2011, pp.57-64.

<sup>7</sup> “L'Ambrosiano”, 11 maggio 1930; C. Vigni, *Vicenza e gli ornamenti moderni da giardino*, “Domus”, luglio 1930, p.52; F. Maestrucci, *Pro-memoria*, s.a., p.1; C. Sirigatti, *op. cit.*, nota 85.

<sup>8</sup> F. Saponi, *op. cit.*, p.130.

<sup>9</sup> Archivio Accademia di Belle Arti di Firenze, *Fascicolo personale di Corrado Vigni*, Prot. N. 13, Posiz. P.; *Gli Accademici del Disegno – Elenco alfabetico*, a cura di Luigi Zangheri, Firenze 2000, pp.73-74.

<sup>10</sup> G. Colacicchi, in “La Nazione”, 7 maggio 1956.

<sup>11</sup> ヴィーニ死没時の住居はフィレンツェ、スジーニ通り六番地。娘のアンナ・マリア・シモネッタ・クリスティーナは1917年9月19日生まれで、1946年にヒッチコック氏と結婚した。ヴィーニの没年には39歳で、イギリスのワリントン・サーレイに住んでいた（Archivio Accademia di Belle Arti di Firenze, *Fascicolo personale di Corrado Vigni*, Prot. N. 155, Posiz. P.; ivi, *Professore di Ruolo*, Vigni Corrado）。

## ヴィーニの公共作品一覧

1. 《ジェニー・デメトリアルキ・ラヴァロッティの肖像》、「ラヴァロッティ夫妻の墓碑」、

フィレンツェ、ポルテ・サンテ墓地、1920 年

*Sepolcro di Jenny Demetriarchi Lavarotti*, Firenze, Cimitero delle Porte Sante diam. 22 cm (sepulcro 135 × 63 cm)

エットレ・ラヴァロッチェ（1944 年没）と妻ジェニー・デメトリアルキ・ラヴァロッチェ（1920 年没）の墓碑。葡萄の実と葉のモチーフの浮彫装飾がなされた十字形の石碑に、夫妻を別個に表したブロンズ製の円形の肖像浮彫が嵌め込まれており、夫人の肖像がヴィーニ作である。

Bibl: *Porte Sante*, 2001, p.84 (illus. p.83)

2. 《アッティリオ・ピアッツェージ墓碑》、フィレンツェ、ポルテ・サンテ墓地、1922 年

*Sepolcro di Attilio Piazzesi*, Firenze, Cimitero delle Porte Sante 95 × 80 cm

8 歳で没した少年アッティリオ・ピアッツェージ（1914-22 年）の墓碑。大理石の石碑に、跪いた裸体の少年が合掌して悼んでいる。背景は十字架とアヤメ。

Bibl: A. P. Torresi, 2000, p.249, fig.282; *Porte Sante*, 2001, p.78 (illus.)

3. 《ヴェーラ・ジュスティ墓碑》、フィレンツェ、ポルテ・サンテ墓地、1923 年

*Sepolcro di Vera Giusti*, Firenze, Cimitero delle Porte Sante 25 × 25 cm

生後一年余りで没した女兒ヴェーラ・ジュスティ（1922-23 年）の墓碑。白大理石で建立された本作は、壺、向かい合う鳩、百合などの装飾によりくり抜かれ、亡くなった幼女の肖像浮彫が施されたブロンズ製のプレートが嵌め込まれている。この肖像がヴィーニ作である。右上に Vigni という署名がある。

Bibl: *Porte Sante*, 2001, p.84 (illus. P.83)

4. 《ウェヌスの誕生》(図 4a)、《オルフェウスの死》(図 4b-1, 4b-2)、低浮彫、ローマ、国鉄職工クラブ附属劇場旧蔵、1925 年以前

*Nascita di Venere, Morte di Orfeo*, già Roma, Dopolavoro Ferroviario (via Bari)

ローマの国鉄職工クラブはアンジェロ・マッツォーニの設計により 1925 年に建造された。劇場の三階席の高さで、舞台側を向いた壁面の左右の端を飾っていたヴィーニの二点の浮彫は、現存しない。舞台に向かって立つと左手に《ウェヌスの誕生》、右手に《オルフェウスの死》が置かれていた。歴史的写真に記録されているが、作品を単独でとらえた写真は管見の限り発見できなかった。リベロ・アンドレオッチェの影響を感じさせる優美な作品で、もし現存していれば、ヴィーニの最高傑作のひとつと評価されたであろう。なお、ヴィーニとその親友フランチェスコ・バリオーニ (cat.10 参照) 及びジャンヌ・ボルガレロ夫妻を含むアトリエ写真に、《オルフェウスの死》のジェッソ習作が映っている (図 4c)。

《ウェヌスの誕生》は海岸を舞台とし、砂浜には貝やヒトデが見て取れる。中央では、海



上にウェヌスが横たわり、左右には二人ずつのニンフたち、さらに左端では一人の人魚が、右端では身体を交差させた二体の人魚が泳いでいる。上空には鳩が飛び、NASCITA -DI-AFRODI-TE と表題が記されている。《オルフェウスの死》では、中央の波打ち際でオルフェウスが竖琴の傍らに横たわっている。左右には樹木を背に二人ずつ乙女が立っているが、このうち右側の乙女たちの足下には蛇が見て取れる。左右の端にはそれぞれケンタウルスが表されている。上方には LEG-GENDA-DI ORFEO と表題が記されている。

Bibl: *Angiolo Mazzoni* 1984, p.124 (schede delle opere, a cura di Alfredo Forti); *Angiolo Mazzoni* 2003, p.34 (E. Crispolti, *Quali gli "artisti di Mazzoni"?*), p.308 (illus.); N. Kai, *Corrado Vigni* etc., 2010, pp.144 (illus. dello studio di Vigni con *la Morte di Orfeo*) e 148, nota 24.

##### 5. 《若きディアナ》、パレルモ、郵政電信庁舎、会議室、ブロンズ、1926 年

*Diana giovane*, Palermo, Palazzo delle Poste, Sala delle conferenze

左側に牡鹿を従え、その肩に左手を置いた、裸体のディアナ立像。顔をやや右方に向け、右腕に纏わせた布が地面まで垂れている。本作は 1928 年に第四回モンツァ国際展覧会 (IV Esposizione Internazionale di Monza) で金賞を受賞した。その後、アンジョロ・マッツォーニの設計により 1930-34 年に建造されたパレルモの郵政庁の会議室に置かれた。会議室は他にベネデッタ・マリネッティによる五点の絵画《陸上通信》《航空通信》《船舶通信》《電信電話通信》《ラジオ通信》と、タートによる二点の絵画《労働》《青春》で飾られている。

本作のテラコッタ・ヴァージョンがホテル・バリオーネ系列のボルゴ・ディ・ピエトラフィッタ・パレスに現存する。残念ながら鹿の首から上が欠損している。像高 116 cm、台座の厚み 4 cm、楕円形の台座の直径が最大 60 cm 最小 55 cm である。

Bibl: I. Tavolato, 1934, p.45 (illus.); F. Saponi, 1934, p.132 (illus.); *Palazzi storici delle poste italiane*, Milano 1996, p.134 (illus. a colori); *Angiolo Mazzoni* 2003, p.36 (E. Crispolti, *Quali gli "artisti di Mazzoni"?*).

##### 6. 《ボルガレッコ家墓廟》、ジェノヴァ、スタリエーノ墓地、1926 年

Sepolcro Borgarello, Genova, Cimitero monumentale di Staglieno.

ボルガレッコ家はバリオーネ家 (cat.10 参照) と同様に歴史的な旅館業の一家で、おそらくジュゼッペ・ボルガレッコが、妻マリア・ドラッグの逝去 (1899 年) に伴い本墓廟を建立し、彫刻家アキッレ・カネッサ (ジェノヴァ、1856-1905 年) に《天使》を制作させたと思われる。その後彼らの息子カルロが、妻ソフィア・ビュラルの逝去 (1926 年) に伴い、廟堂天蓋を追加し (図 6a)、ヴィーニに三点の大理石浮彫を制作させた。すなわち、切妻部の浮彫《聖母子と二人の熾天使》(図 6b-c) と、アーチ左右上方の二点の浮彫《天使》(図 6d-e) で、青を中心とした多色モザイクを背景地とする。カルロとソフィアの娘ジャンヌはヴィーニの親友フランチェスコ・バリオーネと結婚しており (cat.4 参照)、カルロはこの娘婿を通

じてヴィーニの知遇を得たと推測される。なおバリオーニ家子孫邸（ジョヴァンナルディ文書館）に廟堂上部と浮彫に関する習作素描（図 6f）と、ジェッソによる《聖母子と二人の熾天使》が現存する。

Bibl: F. Sborgi, *Staglieno e la scultura funeraria ligure tra Ottocento e Novecento*, Torino 1997, p.380 (senza riferimento al Vigni); G. Giovannardi, 2003ca., pp.10-11; N. Kai, *Corrado Vigni etc.*, 2010, pp.145 e 149, nota 28.

#### 7. 《聖フランチェスコ》記念像、ブロンズ、ピオンビーノ市旧蔵、1926 年

San Francesco, ubicazione ignota (già a Piombino)

ピオンビーノ市の委嘱によるが、現在の所蔵先は未確認である。ジョヴァンナルディ文書館に本作と思われる聖人像の歴史的写真が保管され、彫刻家本人が写真の右上隅に Vigni 1926 と署名している。

Bibl: F. Maestrucci, p.1; G. Giovannardi, 2003ca., p.16.

#### 8. 《泉》《薬》《衛生》《健康》、モンテカティーニ・テルメ、テットウッチョ浴場、1927 年

*La Sorgente, La Medicina, L'Igiene, La Salute*, Montecatini Terme, Stabilimento Tettuccio

トスカーナ州モンテカティーニ・テルメの温泉の効能は古代ローマ時代から知られるが、1370 年に水源のひとつが屋根 (tettoia) で覆われたことから、この浴場はテットウッチョ (Tettuccio) の名で呼ばれるようになった。同温泉は 1773-82 年にロレーヌ家のトスカーナ大公ペーター・レオポルドによって本格的な開発が進められ、1779-81 年にテットウッチョ浴場もニコロ・ガスパーロ・マリア・パオレッティの設計案により再建された。その後フィレンツェの建築家・技師ウーゴ・ジョヴァンノッツィ (1876-1957 年) が 1916 年に温泉場の全施設の設計案と都市計画案を委ねられたが、同年の設計案は第一次世界大戦のため実施されなかった。今日われわれが確認できるのは 1918 年に発表された修正案だが、ファサードのアーキトレヴ上に四体の女性寓意像を配する計画がすでに見て取れる。テットウッチョ浴場は 1923-27 年に建造され、1928 年に公式に除幕された。ヴィーニの四体の彫像はテットウッチョ浴場が完成した 1928 年 6 月の『<sup>リンジエニエーレ</sup>技術者』誌掲載の写真に現在と同じ順序で並んでいる。

ヴィーニの女性寓意像は、テットウッチョ浴場入口の左右に配された計四本の円柱が支えるアーキトレヴ上に一体ずつ立っている（図 8a）。まず向かって左端の《泉》は、左胸の下に位置に両手で水瓶を持ち上げ、傾けて水を注ぐ姿で表される（図 8b）。

左から二番目の《薬》は右手に小鉢をもち、左手で花のついた薬草を携えている（図 8c）。

三番目の《衛生》（図 8d）は両手で銘帯をもつが、そこには何も記されていない。

右端の《豊饒の姿をとる健康》（図 8e）は、花や果実の入った籐の籠を両手で支え持ち、頭髮にも果実が見て取れる。

《泉》と《健康》のジェッソ習作（フィレンツェ、個人蔵）については拙論を参照。

Bibl: *Le nuove costruzioni alle R. Terme di Montecatini*, “Architettura e arti decorative”, ottobre 1923, pp.83-91, illus. a p.86; *I nuovi edifici delle Regie Terme di Montecatini*, “L’ingegnere”, giugno 1928, pp.344-355, illus. a p.346; Société Anonyme, *Itineraries d’Italie*, Florence, *Montecatini Thermae*, Florence 1929, p.9; V. Ferretti, *Liberty e Terme di Montecatini*, ivi 1999, p.33; V. Santoianni, *Montecatini Terme*, Firenze 2000, p.42; R. Giovannelli, *Un diporto artistico in Valdnievole*, in *Montecatini – città giardino delle Terme*, a cura di Maria Adriana Giusti, Milano 2001, pp.111-215, in particolare p.134, illus. a pp.148-149; F. Copertini, *Il risveglio* etc., 2006, pp.55-61, in particolare p.61; A. Lambertini, *Verso un nuovo paesaggio termale: il villaggio dell’acqua di Massimiliano Fuksas*, in AA. VV., *Montecatini città d’acqua*, Firenze 2008, p.153, fig.53; C. Massi, *Montecatini Terme: l’invenzione della moderna città termale*, in AA. VV., *Montecatini città d’acqua*, Firenze 2008, pp.71-111, in particolare p.98; C. Massi, *Architettura e paesaggio a Montecatini – Itinerari metropolitani nella città termale*, Firenze 2014, p.82; N. Kai, 2015, pp.21-22, 52.

9. 《キリスト哀悼》(カステルフランコ・ディ・ソット戦没者記念碑) ブロンズ (台座はトラヴァーティン)、1927 年

*Pietà (Monumento ai caduti di Castelfranco di Sotto)*, bronzo su base in travertino

頭に布を巻き、外衣を纏った母親が、膝の間にくずおれる息子を抱いている。息子はコートを着た兵士の姿で、正座に近い姿で地面に崩れ落ち、眼をつぶっている。左側に傾けた頭部が母親の左手に支えられている。

Bibl: *Corrado Vigni – A 20<sup>th</sup> century artist inspired*, “The Italian Mail”, 24 luglio 1926; *Il Monumento ai caduti di Castelfranco di Sotto*, “La Nazione”, 4 luglio 1927 (illus.); G. Salvagnini, 1999, pp.4 (illus.), 72 (scheda 57); A. P. Torresi, 2000, p.249, fig.281.

10. 《ケレス》(ホテル・バリオーニ創業 25 周年記念メダル浮彫)、個人蔵、1928 年

*Cerere*, medaglie commemorative per il 25<sup>mo</sup> del Hotel Baglioni

ヴィーニの親友フランチェスコ・バリオーニはフィレンツェのウニタ・イタリアーナ広場に現存するグランデ・ホテル・バリオーニ (当時はホテル・バリオーニ) の創業者レオポルドの孫であった。フランチェスコは自邸の装飾や家族の墓碑の制作をヴィーニに委ねた他、ホテル創業 25 周年記念メダルの制作を依頼した。創業以来の従業員三名に金メダル三個が、その他の従業員に銀メダルが配布されたと伝えられ (図 10a)、現在子孫のもとに銀メダル一点 (直径 2.7cm) (図 10b, c) と、原型となるブロンズ製浮彫 (表裏片面ずつ、各直径 21cm) (図 10d, e) が残されている。また晩年のヴィーニが 1940 年代後半に毎夏を過ごした教え子ヴァレリオ・マンガーニ (1950 年没) のムジェッロの農家にテラコッタ製浮彫 (表のみ、直径 44cm) が現存する (図 10f)。

裏には、オリーブの葉の懸花装飾に囲まれた銘文が、厳しい労働に耐えた従業員たちの美

徳を称讃している。上方に星、下方に斧と束というファシズムの標章が配される。銘文は ASPERRIME SED TENACITER / NEL 25° ANNO / DALLA FONDAZIONE / L'ALBERGO BAGLIONI / OTTOBRE 1928 / A. VI (厳しくとも粘り強く。バリオーニ・ホテル創業 25 周年に。ファシスト暦 6 年、1928 年 10 月)。

表には、農業の女神ケレスが、忠誠の象徴である犬を従え (C. Ripa, *Iconologia*, Roma 1603, p.152 (*Fedeltà*))、勤勉の象徴である蜜蜂に囲まれて (*Ivi*, p.226 (*Industria*); F. Picinelli, *Mondo simbolico*, Venetia 1678, 8, 1, 52)、岩に座している。一束の麦穂を手に、豊饒を象徴する乳房を露出させている。

ムジェッロのテラコッタの裏面に貼付された紙片には以下の文面が見られる。「『ケレス』 (1945 年) / フィレンツェ、美術アカデミーのヴィーニ教授の作品 / 『ケレス』 (『穀物』の語源。穀物、小麦、パンの女神)。野の植物を司るローマの女神。サトゥルヌスとキュベレの娘で、ギリシャの女神デメテルと同一視される。概して、片手に麦穂、片手に鎌をもつ姿で表される。収穫後に女神への供儀を行い、初物を献上していた。農業の保護者、／ (原始時代の牧畜と狩猟以降の) 秩序立った文明の象徴、家族と結婚の保護者。／ 緑の大地をも表す」 CERERE (1945) / (opera del Prof. Vigni dell'Accademia delle Belle Arti – Firenze) / CERERE (da cui cereali; dea delle biade, frumento, pane) Divinità romana della vegetazione dei campi figlia di Saturno e di Cibebe, identificata con la dea greca Demetra. Rappresentata per lo più con un fascio di spighe in una mano, e la falce nell'altra. Li facevano [ad essa] sacrifici e li offrivano primizie dopo il raccolto. È la protettrice dell'agricoltura, simbolo di / civiltà organizzata (dopo la pastorizia e la caccia primitive) e protettrice della famiglia e del matrimonio. / Rappresenta anche la verde terra». この記述は明らかに彫刻家本人のものではない。「1945 年」という記載も制作年ではなく、本作の寄贈の年代を示すものであろう。なぜなら 1928 年の年記とヴィーニの署名のある歴史的写真 (バリオーニ家子孫邸に現存) の背景の壁に本作と思われる作品が掛かっているからである (図 10g)。

Bibl: F. Baglioni, *Cinquant'anni di vita del Grande Hotel Baglioni Palace*, Firenze 1953, p.26, p.28 (illus.); N. Kai, *Corrado Vigni etc.*, 2010, pp.145 (illus.) e 147.

#### 11. 《フィリッポ・キオッフィ墓碑》 (トレスピアーノ墓地, Terravalle H)、1929 年

*Lapide di Filippo Chioffi*, Firenze, Cimitero di Trespiano cm75x65

22 歳の若さで病没したフィリッポ・キオッフィ (1928 年 12 月 31 日没) の墓碑。長袖の丸首シャツを着た二人の青年の半身像が左右から巻紙を持つ。巻紙には故人に捧げられたイタリア語による悼辞が記されている (図 11a)。キオッフィ家はヴィーニの親友フランチェスコ・バリオーニ (cat.10 参照) の義兄弟の家系で、同じトレスピアーノ墓地にはフランチェスコの父アンドレア・バリオーニ墓碑 (cat.26) も存在する。本作の枠の右下には C. VIGNI 1929 という署名・年記がある (図 11b)。

Bibl: G. Salvagnini, 1996, p.23 (illus.), p.53 (cat.268), p.93.

12. 《聖マルコの獅子》、ブレッシャ、アドリア海保険連合会館ファサード装飾、低浮彫、大理石、1931 年

*Leone di san Marco*, Brescia, Palazzo RAS (Riunione Adriatica di Sicurtà), Piazza della Vittoria  
ブレッシャのヴィットーリア広場はマルチェッロ・ピアチェンティーニの立案により 1929-32 年に整備された。アドリア海保険連合会館もピアチェンティーニにより 1930-32 年に建造された。同保険連合はイタリアにおける保険会社の草分けの一つで、1838 年にトリエステで創設された。

ヴィーニの浮彫は同会館の広場に面するファサード上方右端に配されている。有翼の獅子が横たわり、前足で PAX TIBI MARCE / EVANGELISTA MEVS (汝に平安あれ／私の福音書記者マルコよ) と記された書物を携えている。浮彫下方の枠には「1838-1931-」と記されている。これはアドリア海保険連合の創設年と、本浮彫の設置年を表している。

ヴェネツィア共和国のシンボルである「聖マルコの獅子」は、Assicurazioni Generali のヴェネツィア管区におけるエンブレムでもある。ブレッシャは 1426 年から 1796 年までヴェネツィア共和国の支配下にあった。

Bibl: F. Maestrucci, p.1; *Verso Porta San Nazaro*, a cura di M. Braga, R. Simonetto, in *Brescia Città Museo*, Brescia 2004, p.33.

13. 《航空通信》《電気通信》《アジア》《アフリカ》《ヨーロッパ》《アメリカ》《オセアニア》《船舶通信》《陸上通信》《歩兵》《水兵》、ラグーサ、郵政電信庁舎、1932 年

*Le comunicazioni aeree, Le comunicazioni elettriche, L'Asia, L'Africa, L'Europa, L'America, L'Oceania, Le comunicazioni marittime, Le comunicazioni terrestri, Il fante e Il marinaio (Monumento ai postelegrafici caduti per la Patria)*, 1932. Ragusa, Palazzo delle Poste e telegrafi

ラグーサ新市街中心部のマッテオッティ広場に面する郵政電信庁舎は、シチリア州のファシズム建築を代表する作品で、1936 年にアンジョロ・マッツォーニの設計に基づき着工され、1938 年 10 月 30 日に除幕された。現在同庁舎のファサードを区切る九個の控え壁の各々の上方には、ヴィーニが制作した等身大を超えるトラヴァーティン製の九体の女性擬人像が正面向きに立ち並ぶ。また庁舎の左前方に位置する戦没郵政電信士記念碑には、記銘のある一対の直方体を背にして、やはりヴィーニによる歩兵と水兵の立像が置かれる。

九体の擬人像は元来リグーリア州の海港都市ラ・スペツィアの郵政電信庁舎（マッツォーニ設計、1933 年完成）を飾るためヴィーニに委嘱され、1932 年にいったん同庁舎ファサードの、九本の角柱が支える巨大なアーキトレヴの上に設置された。《歩兵》と《水兵》も同庁舎側壁に設けられた戦没電信電話技師記念礼拝堂に、やはりヴィーニによる《悲しみの聖母》（消息不明）を囲んで置かれていた。しかし彫像群はフィッリアやリゲッティらリグー



リア州・ピエモンテ州の未来派グループの圧力により、程なく同庁舎から取り外され、同じ建築家が手がけたラグーサの庁舎に転用される運命を辿った。

以下、各彫像を概観する。

一番目の、左端に位置する《航空通信》(図 13b) は、右手でプロペラをもつ。

二番目の《電気通信》(図 13c) は、双方の手で握った電極を接触させて稲妻状に電気を放出している。

三番目の《アジア》(図 13d) は、頭からヴェールを被り、右手に松笠をもつ。また左足の前に煙を上げる香炉が置かれている。

四番目の《アフリカ》(図 13e) は、右手でバナナを、左手で穀物の穂が入った豊饒の角をもつ。左脚の脇にはサボテンがある。細かく編んだ頭髮はアフリカ風で、九体の擬人像のうち彼女だけが裸の胸を露出させ、また腰布を纏い、右腿を露出させている。また首には玉石のネックレスをかけている。

中央にある《ヨーロッパ》(図 13f) は、頭上に冠を戴き、左右相称の姿勢で、上向きの豊饒の角を両手でもつ。

六番目の《アメリカ》(図 13g) は、右手に三本の矢を、左手に弓をもち、左足の下に亀を踏んでいる。

七番目の《オセアニア》(図 13h) は、首に巻いた玉石のネックレスに右手を添え、左手を棕櫚の幹の上に載せている。また足下には巻き貝の殻が置かれている。

八番目の《船舶通信》(図 13i) は、錨の後ろに立ち、錨の上に左手を添えている。

九番目の、右端に位置する《陸上通信》(図 13j) では、右足の前に有翼の車輪が置かれている。

庁舎の左前方に位置する《戦没郵政電信士記念碑》(図 13k) では、一対の直方体を背にして、ヴィーニによる歩兵と水兵の立像が置かれる。ヘルメットと軍服を装着した《歩兵》(図 13l) は腰に刀剣を帯び、弾倉を櫛に掛け、両手で銃を垂直に立てて直立する。水兵服を着た《水兵》(図 13m) は両手で魚雷を垂直に立てて直立する。それぞれの彫像の基台の側面には C. VIGNI という署名が刻まれている。

各擬人像の詳細な図像分析およびそれぞれのジェッソ習作（フィレンツェ、個人蔵）については拙論（2013 年）を参照。

Bibl: “Italia marinara”, 1 aprile 1933 (illus. con *il marinaio*); *Ragusa 1928-1938. Una città in cantiere. Genesi di un Capoluogo di Provincia*, a cura di Mario Nobile, Ragusa 1994, p.152; M. Ratti, *Il palazzo delle Poste della Spezia e i mosaici futuristi di Prampolini e Fillia*, in *Angiolo Mazzoni (1894-1979). Architetto Ingegnere del Ministero delle Comunicazioni* (Atti del Convegno di Studi, Firenze 2001), a cura di M. Cozzi, E. Godoli, P. Pettenella, Milano 2003, pp.283-294, in particolare p.283; L. Ricasoli, *La Spezia 1933: il mosaico ceramico nella torre del Palazzo delle Poste e la nuova iconografia delle vie di comunicazione*, in *Atti del XII colloquio dell'Associazione Italiana*

*per lo Studio e la Conservazione del mosaico* etc. (Padova-Brescia 2006), a cura di C. Angelelli e A. Paribeni, Tivoli (Roma) 2007, pp.341-352; M. Ratti, *Le sculture di Corrado Vigni del Palazzo delle Poste e i ripensamenti progettuali futuristi di Angiolo Mazzoni*, in *Futurismi. Aeropittura aeropoesia architettura nel golfo della Spezia* (catalogo della mostra, La Spezia 2007-2008), ivi 2007, pp.95-99; N. Kai, 2013, *passim*.

14. 《キリスト磔刑》(北米の墓地用)、ブロンズ、所蔵先不明、1932 年

*Cristo Crocifisso con la Vergine, san Giovanni Evangelista e la Maddalena* (per un cimitero del Nord America), bronzo, ubicazione ignota

磔刑の左右に聖母と福音書記者ヨハネ、さらに十字架の下端を抱くマグダラのマリアが認められる。1934 年の新聞記事に、福音書記者ヨハネの写真のみ掲載。同年のタヴォラートのモノグラフでは米国の墓地用との記載がある。1942 年の新聞記事には全図写真 (図 14a) が掲載され、北米の墓地用との記載と、制作年代への言及がみられる。現在の所蔵先は不明。ただしムジェッロの個人邸に「キリスト磔刑」のジェッソ習作 (像高 190 × 幅 180 × 奥行き 37.5cm) (図 14b, 14c) が現存し、拙論 (2010 年) で紹介した。ヴィーニのアトリエに置かれた同習作、「福音書記者ヨハネ」習作 (図 14d)、「マグダラのマリア」習作 (図 14e) を示す貴重な歴史的写真がジョヴァンナルディ文書館に保管されており、本稿で初公開する。

Bibl: I. Tavolato, 1934, pp.37, 42, 47; Liosta, *Corrado Vigni*, “Il secolo XIX –Genova”, 30 giugno 1934 (illus. di *san Giovanni Evangelista dolente*); M. Biancale, 1941, p.529; R. Clementi, *Nel solco della tradizione toscana –L’arte di Corrado Vigni*, “L’Osservatore Romano”, 9-10 febbraio 1942 (illus.); *Un ritratto del Pontefice modellato da Corrado Vigni*, “L’Ambrosiano”, 3 aprile 1942; G. Giovannardi, 2003ca., p.14; N. Kai, *Corrado Vigni* etc., 2010, pp.147-148 e illus. a p.146.

15. 女性擬人像三体《水力発電》《火力発電》《電力》、フィレンツェ、国立労働銀行、1933 年頃

*Tre statue allegoriche: Produzione di energia idroelettrica, Produzione di energia termoelettrica, Elettricità?* (per l’ex sede della Società elettrica di Valdarno), Firenze, Banca Nazionale del Lavoro (via Cerretani)

フィレンツェのヴァルダルノ電力が委嘱した三点の擬人像である。同社は 1930 年にチェッレターニ通り六番地の新社屋を購入した。シリガッティは、1933 年に同社がリヴォルノ電力リグーリア・トスカーナ社と合併した機会に委嘱がなされたと推測する。ヴィーニの擬人像は、同社屋がイタリア労働銀行の所有となった現在も、すべて当初の位置にある。シリガッティは主題を明記していないが、タービンの上に座し、左手で火を吹く器をもった擬人像が《火力発電》(図 15a, 15a-1)、両手で下方に向けた器から河川が流れ落ちる座像が《水力発電》(図 15b, 図 15b-1)、左手を角柱の上に置き、右手で電池をもつ立像が《電力》(図 15c、



15c-1) と思われる。

Bibl: C. Sirigatti, 2002; N. Kai, 2013, p.9.

16. 《十字架の道行き》十四点、低浮彫、ローマ、サン・ロベルト・ベッラルミーノ聖堂、1933 年以降

14 bassorilievi con *Via Crucis*, Roma, Chiesa di San Roberto Bellarmino

本聖堂はクレメンテ・ブシリ・ヴィーチの設計により、1933 年に建造された。聖堂はその三年前に列聖されたイエズス会士ロベルト・ベッラルミーノ枢機卿（1542-1621 年）に捧げられている（M. G. Muzj, *La Chiesa di San Roberto Bellarmino in Roma* etc., Roma 1991, p.6）

身廊に配された「十字架の道行き」を中心とする全 14 点のキリスト受難伝はヴィーニ作と伝えられ、物語の順序としては聖堂左奥から入口左手へ、さらに入口右手から聖堂右奥へと展開する。以下順番に、聖堂左奥の七番目の浮彫は《ピラトの前のキリスト》（図 16a）で、中央に手首を紐で縛られたキリストが立つ。左端には兜を被った兵士が、その紐を右手でつかみ、左手に棒を持って立っている。右端にはピラトが腰掛け、水盤で手を洗う動作をしている。ピラトの下の方の一段目に「V...G...」という署名が現存し、元来は「VIGNI」と記されていたと推察される（図 16a-1）。左側の六番目の《十字架運び》（図 16b）では、同じ兜を被った兵士が中央に立ち、左で十字架を背負うキリストの髪を右手でつかみ、左手でキリストの腰紐を握っている。右では別の男が十字架の下端を両手で支えている。左側の五番目の《十字架運び（キリスト倒れる）》（図 16c）では、キリストが倒れた十字架の下敷きになっている。左側では兜の兵士が左手を十字架に掛け、右手にもつ棒で倒れたキリストを突いている。右側では別の男が十字架の後ろから遠巻きに見守っている。左側の四番目の《十字架運び（跪くキリストと聖母）》（図 16d）では、十字架の下に倒れて跪くキリストの顔を、長いヴェールを頭から被った聖母がみつめている。聖母は左手で頬を支え、やっと立っているような様子である。十字架の後方からは、兜の兵士が左手でキリストの髪をつかみ、右手でキリストの腰紐を引いている。左側の三番目の《十字架運び（クレネ人シモン）》（図 16e）では、中央にキリストが立ち、左で別の男——おそらく共観福音書でイエスの代わりに十字架を担ったと伝えられるクレネ人シモン——が十字架を担っている。右では兜の兵士が左手で鞭を振り上げてこの男を急き立てている。左側の二番目の《十字架運びと聖女ヴェロニカ》（図 16f）では、十字架を担うキリストの前に聖骸布を広げる聖女ヴェロニカが立っている。右側では兜の兵士が左手でキリストの腰紐を握り、右手で十字架の端を支え持っている。左側の一番目の《十字架運び》（図 16g）では、中央で十字架の下に倒れているキリストの背に、左側に立つ男が左手を伸ばし、十字架の上端に右手を掛けている。男の容貌は図 16e に登場するクレネ人シモンに似ている。十字架の後方では兜の兵士がキリストの腰紐を左手で握り、右手を十字架の腕木に掛けている。右側の一番目の《十字架運びと二人のマリア》（図 16h）では、中央でキリストが十字架を担い、左手を伸ばして前方の女を見ている。そこに

は正座の姿勢で座る髪の高い女性がキリストの前に両手を挙げている。その奥にはもう一人の女性が立ち、同様の動作をしている。二人はおそらくマグダラのマリアとマルタであろう。イエスの後方では兜の兵士が左手でキリストの背を押し、右手で十字架の腕木を支えている。右側の二番目の《十字架運び（キリスト倒れる）》（図 16i）では、イエスが十字架の下敷きとなって腹這いの姿勢をとり、腕木の下端を抱きかかえている。上からは別の男がイエスの髪をつかんでいる。右端に立つ兜の兵士はキリストの腰紐を両手で引いている。左端に立つ男は十字架に両腕をかけている。右側の三番目の《十字架運び（支えられるキリスト）》（図 16j）では、中央に立つ衰弱したイエスを二人の男が左右から支えている。右側の四番目の《十字架への釘打ち》（図 16k）では、幹の上に倒された十字架にキリストが釘打たれている。両足を押さえる男、右手で槌を振り上げてキリストの右手を打ち付ける男、さらに右端には棒を携えて立つ男がいる。右側の五番目の《キリスト磔刑》（図 16l）では、中央でキリストが磔刑に処せられ、左には長いヴェールを頭から被った女が合掌してイエスを見つめ、右には別の女が正座して左手を伸ばし、右手を自分の頭に置いている。その背後には兜の兵士が錫杖をもって立ち、キリストを見張っている。右側の六番目の《十字架から降ろされたキリストの哀悼》（図 16m）では、十字架の軸木の下方のみが表され、斜めに梯子が掛かっている。手前にはキリストが死んで横たわり、聖母が背後からイエスの脇に両手を入れて支えている。右側ではマグダラのマリアがイエスの左手に手を伸ばす。中央左では、アリマタヤのヨセフが左手で荊冠を、右手で釘をもち、瞑目して立つ。右側の七番目の《キリスト埋葬》（図 16n）では、敷布の上に置かれたイエスの遺骸を石棺に収めている。頭の方からアリマタヤのヨセフが、足の方からニコデモが遺骸を支え、中央後方からは頭から長いヴェールを被った聖母が、合掌してわが子を悼んでいる。

Bibl: 1920 – *Basilica di Cristo Re* – 1995, Roma 1995, pagina non numerata con la scheda su Corrado Vigni, stesa da A. d'O.

17. 《聖杯をもつ二人の天使》（主祭壇聖龕浮彫装飾）、《灯明をもつ二人の天使》二点、《キリスト洗礼》（洗礼盤）、ローマ、クリスト・レ聖堂、1934 年以前

*Due angeli con calice* (per il ciborio dell'Altare maggiore), *Due lampade votive sorrette da due angeli*, *Il battesimo di Gesù* (fonte battesimale), Roma, Chiesa del Cristo Re

本聖堂はマルチェッロ・ピアチェンティーニ設計により 1934 年に建造された。主祭壇聖龕の聖杯を取り出す扉口は、左右いずれも、片手に聖杯をもちもう一方の手を胸の上に置く天使を表したヴィーニの鍍金ブロンズ浮彫によって装飾されている（周囲の浮彫《最後の晩餐》はアルフレード・ピアジーニ作）。

主祭壇の左右には、円柱上の円形の台座の上に、燭台の碗を支え持つ二人の天使のブロンズ群像が一对置かれている。また身廊右手奥にある洗礼盤の中央から伸びる棒状の支柱の先

端では、円形の台座の上に、ブロンズ群像《キリスト洗礼》が設置されている。洗礼者ヨハネは左手に葦の十字架をもち、右手の碗でイエスの頭上から水をかけている。イエスは両手を胸の前で交差し、恭しく頭を垂れている。

なお、ピアチェンティーニらによる本聖堂の案内書（1961年刊、fig.13）にはヴィーニ作として《照明をもつ天使》の図版が掲載されているが、誤記であり、同作品にはアルフレード・ピアジーニの署名がある。

Bibl: M. Biancale, *La Chiesa di Cristo Re*, “Il Popolo di Roma”, 18 aprile 1934 (illus. del *Battesimo di Cristo*); *La Chiesa di Cristo Re –tempio internazionale della Pace*, “Il Giornale d’Italia –Roma”, 19 maggio 1934 (illus. del *Battesimo di Cristo*); P. Scarpa, *Una nuova chiesa in prati di castello –tempio votivo dedicato a Cristo Re*, “Messaggero –Roma”, 19 maggio 1934 (illus. del ciborio); C. E. Oppo, *Il tempio votivo della Pace dedicato a Cristo Re*, “La Tribuna –Roma”, 19 maggio 1934; M. Piacentini, *Il Tempio votivo internazionale della Pace dedicato al Sacro Cuore di Cristo Re*, “L’Illustrazione Vaticana”, 1-15 giugno 1934, pp.485-487 (p.485, illus. del *Battesimo di Cristo*); R. Clementi, *Nel solco della tradizione toscana –L’arte di Corrado Vigni*, “L’Osservatore Romano”, 9-10 febbraio 1942 (illus. del *Battesimo di Cristo*); M. Piacentini, A. Prandi, B. Zambetti, *Tempio di Cristo Re*, Roma 1961, pp.29, 56, 61, 65 (figg.12, 13, 14, 16); *1920 – Basilica di Cristo Re – 1995*, Roma 1995, pagine non numerate con la scheda su Corrado Vigni stesa da A. d’O. (illus.).

18. 《聖体顕示台用玉座をもつ二人の天使》、ブロンズ、ローマ、サンティッポーリト聖堂旧蔵、所蔵先不明、1934年以前

*Due angeli sorreggenti il trionfo per l’Ostensorio dell’Altare maggiore*, già Roma, Chiesa di Sant’Ippolito (ubicazione ignota)

同聖堂所蔵の歴史的写真（1934年）によって知られる。クリスト・レ聖堂の《灯明をもつ二人の天使》の構想を転用したものと思われる。

Bibl: *1920 – Basilica di Cristo Re – 1995*, Roma 1995, pagina non numerata con la scheda su Corrado Vigni stesa da A. d’O.

19. 《ヴィットーリオ・モンティリオ》胸像、大理石、ローマ、ピンチョ公園、ヴィッラ・メディチ大通り、1934年

*Busto di Vittorio Montiglio*, Roma, Pincio (Viale di Villa Medici) 66.5 × 43 × 27.5 cm

第一次世界大戦で金勲章を獲得したヴィットーリオ・モンティリオ（1901-29年）の胸像。前面下方に VITTORIO MONTIGLIO という記銘がある。

Bibl: *Il giardino della memoria*, 1999, p.131, cat.133.

20. 《われは主のはしため》、サバウディア、サンティッシマ・アヌンツィアータ聖堂、1935年

*Ecce Ancilla Domini*, Sabaudia, Chiesa della Santissima Annunziata

大理石像はローマの南東約 80 キロにあるサバウディアの、サンティッシマ・アヌンツィアータ教区聖堂入口右手の礼拝堂に安置されている。本作はミラノの「王と祖国」委員会により委嘱された。委員長のエリザ・サバウダは、1920 年に北イタリアのモンツァで最初に誕生した「イタリア女性ファッショ」(Fascio Femminile Italiano)の創設者である。1933 年 12 月にムッソリーニに書簡で彼女たちの「ファシストとしての信仰心」の「ささやかながらも永遠のしるし」をこの彫像によって示したいという意向を表明し、ムッソリーニから承諾を得ている。彫像の制作はヴィーニに委ねられ、1935 年 4 月に作品が受け渡された。その機会に、エベ・ロマーノ作詞、グイド・ファリーナ作曲による「至聖なるお告げの聖母マリアの賛歌」が出版され、表紙を飾るヴィーニの彫像の写真の下には「イタリア女王サヴォア家のエレナ妃殿下に誠心より寄贈」と記された。

立ち姿の聖母は、頭部をやや前方に傾け、左手に持った書物の頁に親指を挟み、頭被りの端を右手で引いている(図 20a-c)。台座の正面にはルカ伝一章四八節に基づく“ECCE ANCILLA/ DOMINI”(われは主のはしため)という銘文(図 20d)が、また左側面には“C. VIGNI”という署名(図 20e)が確認できる。

本作の三点の習作については拙論を参照。

Bibl: R. Clementi, *Nel solco della tradizione toscana -L'arte di Corrado Vigni*, “L'Osservatore Romano”, 9-10 febbraio 1942 (illus.); N. Kai, *Bozzetti inediti* etc., 2010, pp.(3)-(4), (9).

## 21. ローマ大学ラ・サピエンツァの諸作品、1935 年

Opere per l'Università La Sapienza di Roma

高浮彫《ディオスクロイ》(図 21a, b)、トラヴァーティン、法学部(左)と文学部(右)の各ファサード

*I Dioscuri*, Roma, Università La Sapienza, Edificio di Giurisprudenza (a sinistra) e di Lettere (a destra).

左右ともに、馬の手綱を両手で掴むディオスクロイ(カストルとポリュックス)が表されている。馬の手前に立ち、サンダルを履き、首に巻いたマフラーが風を受けて後方に舞っているが、それ以外は全裸である。

高浮彫《雄牛と闘う雌獅子》(図 21c)、《馬と闘う獅子》(図 21d)、物理学部、外側の階段左側

*Leonessa contro toro, Leone contro cavallo*, Roma, Università La Sapienza, sul lato sinistro della scalinata esterna dell'edificio di Fisica.

《雄牛と闘う雌獅子》の浮彫と《馬と闘う獅子》の浮彫が直角に組み合わせられて一つの角を形成している。前者では雌獅子が雄牛の首に噛み付いている。後者では、馬が前足を揃えて

急停止し、後ろ足を宙に浮かせて後方を振り返っている。獅子は逆に後ろ足で踏ん張り、顔と前足を上げ、馬の顔めがけて今にも飛びかからんばかりに威嚇している。二つの浮彫がつくる稜部は前者の浮彫に属するが、樹木の幹に蛇が絡みつき、下方の亀に向かって口を開けて威嚇している。稜の下端に C. VIGNI という署名がある (図 21e)。

丸彫群像《仔鹿と闘う雌獅子》(図 21f, g)、物理学部、中庭

*Leonessa contro cerbiatto*, Roma, Università La Sapienza, cortile interno dell'edificio di Fisica.

雌獅子が仔鹿の胴に前足をかけ、噛み付いている。仔鹿は前足を雌獅子の腰に載せ、上体を反らせて天を仰いでいる。なお本作のテラコッタ・ヴァージョン (図 21h) が、フィレンツェのグランデ・ホテル・パリオーニ最上階の小テラスに現存する。

ラ・サピエンツァ大学のためには、他にもさまざまな大きさのブロンズ製《キリスト磔刑》が制作されたが (図 21i)、現在は失われた。

Bibl: *Domani il Duce inaugurerà la Città Universitaria*, “Ottobre –Roma”, 31 ottobre 1935 (illus. del *Dioscuro* a destra); M. Biancale, *La città Universitaria*, “Il Popolo di Roma”, 30 ottobre 1935; G. Pensabene, *La Città Universitaria inaugurata stamane*, “Il Tevere –Roma”, 31 ottobre 1935 (illus. del *Dioscuro* a sinistra); “La Tribuna –Roma”, 2 novembre 1935 (illus. dei *Dioscuri*); “Neue Züricher Zeitung”, 1 dicembre 1935 (illus. dei *Dioscuri*); C. Tridenti, *Prima visita alla Città Universitaria*, “Il Giornale d'Italia”, 28 ottobre 1935 (illus. della *Leonessa contro cerbiatto*); V. Orazi, *Sculture di Vigni*, “Meridiano Il Roma”, 3 aprile 1938 (illus. del *Dioscuro* a sinistra); I. Mitrano, *La Sapienza 1932-1935 –arte architettura storia*, Roma 2008, pp.119-121, 218, 376 (figg.40-43); I. Mitrano, *Il ruolo degli artisti nella costruzione della città universitaria di Roma*, “Titolo”, 9 (70), 2015, pp.10-12, in particolare p.11 (fig. con *Leone contro cavallo*).

## 22. 《ネーラ河とヴェリーノ河》、噴水群像、テルニ、大聖堂広場、1935 年

*Il Nera e il Velino*, Terni, Piazza del Duomo

ヴェリーノ河はチッタレアーレ近郊のモンテ・ポッツォーニを水源とし、景勝地として名高いマルモレ滝を形成しながらネーラ河へと合流する。ネーラ河はテヴェレ河の左の主要な支流で、水源はマルケ州マチェラータ県ヴァッリンフォンテだが、全長 116 キロにわたり、ほぼ全体がウンブリア州を流れる。コッレスタッテで支流のヴェリーノ河と合流して水量を倍増させ、テルニへと流れ込んだ後、ナルニをかすめ、オルテでテヴェレ河に合流する。

ヴィーニの群像 (図 22a) は、浅い壁龕に沿って設置された半円状の水盤 (奥行き約 110cm、横幅約 170cm) に置かれている。《ヴェリーノ河》(図 22b) は右腕で水甕を支え、下方の《ネーラ河》のもつ鉢に水を注いでいる。段差をもつ岩塊の上に腰を下ろす《ネーラ河》(図 22c) は、右手で鉢を差し出し、《ヴェリーノ河》から水を受けるとともに、左膝の上に



水甕を置き、左手で支えている。二つの丸彫り像は半裸で、《ヴェリーノ河》は背に外衣を羽織り、左膝と股間も布に覆われている。《ネーラ河》は右膝から股間にかけて布で覆われている。背後には樹木が生い茂り林を形成している。

Bibl: *Un'artistica Fontana a Terni in piazza del Duomo*, "La Tribuna", 25 gennaio 1934 (illus.); P. Maggiolini, *Terni società e arte*, 2, Todi (PG) 2013, pp.86-88; N. Kai, 2015, pp.23. 51-52.

23. 《アッシジの聖フランチェスコ》《聖ペレグリヌス》《聖女アガペ》《聖ウァレンティヌス》《聖アナスタシウス》《聖女ドンニーナ》《聖プロクロス》《聖ガブリエーレ・デッラッドロラータ》、テルニ、大聖堂、1934-37 年

*San Francesco d'Assisi, San Pellegrino, Sant'Agape, San Valentino, Sant'Anastasio, Santa Donina, San Procolo, San Gabriele dell'Addolorata*, Terni, Duomo

噴水群像《ネーラ河とヴェリーノ河》と広場を隔てて反対側に聳えるテルニ大聖堂は、1917 年の中部イタリア地震で大きな損傷を被った後、1935 年から 37 年にかけて、ガエタノ・コッポリの計画案に基づいて修復された。ファサード突出部の上方にはテラスが新設され、前述した《ネーラ河とヴェリーノ河》と平行してヴィーニが制作したテルニやウンブリア州に関わるトラヴァーティン製の聖人像計八体が、テラスの前方に設置された（図 23a）。

1934 年 4 月 12 日の記事によれば、資金不足のため予定の八体のうちひとまず四点のみが制作された。切妻の頂点にあった十字架と置き換わる予定であった聖母像も習作は完成していたと伝えられるが、こちらは実際に制作されることはなかった。同年 4 月 27 日の記事によれば、4 月 22 日に《聖ガブリエーレ・デッラッドロラータ》、《聖女アガペ》、《聖ウァレンティヌス》、《聖アナスタシウス》の四点がまず除幕された。残りの四体は遅れて 1937 年までに設置されたと思われる。八体の聖人像の図像と習作との関係については、拙論を参照。

《アッシジの聖フランチェスコ》（図 23b）は左手で巨大な十字架を抱え、右手を胸に置き、両手の甲には聖痕が認められる。フランチェスコ会の修道衣をまとい、腰紐には同修道衣の特徴である三つの結び目が認められる。ウンブリア州アッシジの出身である。

《聖ペレグリヌス》（図 23c）は司教帽を被り、両手で三階建てのバシリカ式聖堂の模型を抱え、足下には殉教聖人を示す棕櫚の枝が置かれる。聖堂の模型は、テルニの最初の霊的指導者として与えられたものであろう。テルニの司教職確立以前の「原司教」とされるペレグリヌスは、142 年に斬首刑に処されたと伝えられる。

《聖女アガペ》（図 23d）は左足で宝物箱を踏み、右足下に棕櫚の葉を置き、合掌して左上方を向き、天を見つめている。左足で宝物箱を踏みつける動作は、世俗の財産に執着しない態度を示し、聖女が財産をすべて売り払って貧者に与えたと伝えるヤコビッリの記述を想起させる（L. Iacobilli, *Vite de' santi, e beati dell'umbria, e di quelli, i corpi de' quali riposano in essa provincia*, Foligno 1647 p.255）。テルニの殉教処女聖人で、テルニ初代司教ウァレンティヌスの弟子。273 年に斬首刑に処されたという。

《聖ウァレンティヌス》(図 23e) は司教帽を被り、右上方を見上げている。右手で殉教聖人を示す棕櫚の枝をもち、左手を帯の位置に置いている。初代テルニ司教で、270 年に斬首刑に処されたという。同地の主要な守護聖人として知られる。

《聖アナスタシウス》(図 23f) はちょうど隣の《聖ウァレンティヌス》を逆にしたような体勢をとるが、殉教聖人ではないため棕櫚はもたない。司教帽を被り、右手を胸に置き、左手で衣服の裾を持ち上げている。第三代テルニ司教で、プロクロスの後任である。

《聖女ドンニーナ》(図 23g) は、右手に殉教の棕櫚をもち、左手を胸に置いて天を見つめている。殉教聖女らしい図像だが、右脚の後ろに車輪が置かれている理由ははっきりしない。ヤコビッリは聖女の殉教について斬首刑を、『聖人行伝』は火刑を挙げるものの (*Acta Sanctorum*, Aprilis, II, Antverpiae 1675, pp.211-212; “cum sociis ignibus, loco Virginibus coronata” (ivi, p.212))、車輪には言及しない。アガペの親族でテルニの殉教処女聖人として知られるドンニーナは、第二代テルニ司教プロクロスの弟子で、546 年に斬首刑に処されたという。

《聖プロクロス》(図 23h) は司教帽を被り、左手で殉教の棕櫚をもち、握手を求めるように上に向けた右掌を前方に差し出し、想像上の対話相手を見下ろしている。第二代テルニ司教でウァレンティヌスの後任。543 年に皮を剥がされた後、斬首刑に処されたという。

《聖ガブリエーレ・デッラッドロラータ》(図 23i)、俗名フランチェスコ・ポッセンティは 1838 年にアッシジで生まれ、ウンブリア州スポレートで育ち、イエズス会の神学校に通った後、1856 年、18 歳のときモッロヴァッレで御受難修道会修練士となり、同年 9 月 21 日に「ガブリエーレ・デッラッドロラータ」(悲しみの聖母のガブリエル) の名で聖職衣を得た。1858 年にピエヴェトリナーナに隠棲して哲学を研究、翌年アブルッツォ州イーゾラ・デル・グラン・サッソに移住して研究を続けた。1862 年、わずか 24 歳で結核のため同地で没した。1908 年に列福、1920 年に列聖された (*Bibliotheca Sanctorum*, 5, col.1336-1339)。

聖人は両手で書物を胸の位置に支え持ち、体軀に斜めの角度で読んでいる。また右足の前には髑髏が置かれている。書物は聖人の学究を、髑髏はその早すぎる死を示すものであろう。短髪で長い外衣を着ている。

Bibl: *Le feste per l'inaugurazione dei lavori del Duomo*, “Messaggero – Roma”, 12 aprile 1934, edizione di provincia; *Le solenni feste di Terni in onore del preziosissimo sangue di N. S. Gesù Cristo nel XIX secolo della Redenzione e per l'inaugurazione delle opere di restauro della Cattedrale con l'intervento di S. E. il cardinale Pietro Gasparri*, 22 aprile 1934, illus. a p.16 e p.26; *La rinascita della Cattedrale di Terni*, “L'unione tunisi”, 27 aprile 1934 (illus.); d. C. Romani, *Terni – La Cattedrale di S. Maria Assunta – 15 secoli di arte e di storia*, Terni s.a., p. non numerata [p.29]; P. Maggiolini, *Terni società e arte*, 2, Todi (PG) 2013, pp.86-88; N. Kai, 2015, pp.23-27, 50-51.

24. 《統帥讃歌》、低浮彫、ボルツァーノ、全国社会保険機構会館ファサード、1935-37 年  
*L'Inno al Duce*, Bolzano, Palazzo INPS (piazza della Vittoria)



ボルツァーノのヴィットーリア広場西側に建つ全国ファシスト社会保障機構 (INFPS; 1943 年以降 INPS) 会館 (図 24a) のファサードに設置されたフリーズ状の低浮彫である。同会館はマルチェッロ・ピアチェンティーニの都市計画に沿って、1935-37 年にパオロ・ロッシ・デ・パオリにより建造された。広場の中央にある公園には、ピアチェンティーニが 1926-28 年に建造した「戦勝記念碑」が聳え立つ。これは第一次世界大戦でのオーストリア＝ハンガリー二重帝国に対するイタリアの勝利を記念する目的で、ファシズム政権により建造された。この勝利により、元来ドイツ語圏であった南チロル地方はイタリアに併合され、アルト・アディジェ州と名称変更されて今日に至っている。ヴィットーリア広場の都市計画全体が、この地域のイタリア化政策の一翼を担っていた。

ヴィーニのフリーズ (図 24b) はファシズム期イタリア国民の諸側面を表した複数の場面から成っている。都市と農村の労働者の描写及び「労働憲章」の授与といった、この建築物の目的である労働者の生活保障にも関わるテーマと並んで、イタリアの軍事的勝利、特にムッソリーニ政権下で引き起こされた植民地「解放」戦争の表象も含まれている。

構図の左端 (図 24c) では、「勝利の女神」を表す有翼の女性像が一人の市民を鼓舞している。市民は腰に右手を当てて女神を振り返り、左手を前方に伸ばしているが、足下にはもう一人の市民が戦死して横たわっている。前方には三人の労働者が棒やプラカードを手に誇り高く行進している。その前方では、三人の石積み工が壁を造営している (図 24d)。一人は跪いて三枚の煉瓦を拾い、もう一人は立って左手に煉瓦を持ち、右手で鋤を使って壁を造っている。三人目はセメントの入った盥を背負って運んでいる。中央部分 (図 24e) は耕作の情景で、若い農夫が棒を使って二頭の牛を操って土地を耕している。さらに前方 (図 24f) では、ヘルメットを被った一人の鋤夫がハンマーを手に立っている。傍らでは若い鍛冶屋が鉄床の前に立ち、幼子を抱いた妻を挟んで、役人から「労働憲章」を受け取っている。同憲章への言及は、労使間の均衡の取れた関係を家族、ひいては国家の存続条件とみなしたファシズム政権の立場を要約している。続いて、奴隷解放の情景が表される (図 24g)。ヘルメットを被り銃を手にした一人の兵士が、左手で奴隷解放の行為を称揚している。実際、一人の若者が手錠で樹木に両手を縛られたアフリカ人の足から拘束を外している。右端では、有翼の「勝利の女神」が「イタリア」の擬人像の頭上に月桂冠を授けている。「イタリア」は右手に長い棒を、左手に豊穡の角を持って正面向きに直立している。

ムジェッロの個人邸にジェッソ習作が四点現存する。高さ 55 × 幅 43 × 奥行き 32cm のものが二点、縦 21 × 横 59 × 厚さ 5 cm のもの一点、縦 21 × 横 55 × 厚さ 6 cm のもの一点である。これらについては拙論を参照。

Bibl: *L'entusiastico saluto di Bolzano fascista ai Principi di Piemonte*, “La Tribuna”, 5 giugno 1938 (illus. con *l'Aratura e la Carta del Lavoro*); *Nuove sculture in piazza della Vittoria a Bolzano*, “Messaggero”, 5 giugno 1938 (illus. con *la Vittoria a sinistra*); M. Biancale, 1941, pp.529 (illus. dell'*Aratura*) e 530; N. Kai, *Bozzetti inediti* etc., 2010, pp.(4)-(6), (10)-(12); F. Copertini Amati,

2011, p.63.

25. 《労働の情景》、ナポリ、全国保険機構会館、1933-38 年

*Scena dei lavori*, Napoli, Palazzo dell'INA (Istituto Nazionale Assicurazioni), Piazza Carità

ナポリの全国保険機構会館はマルチェッロ・カニーノ設計により 1933-38 年に建造された。本作はその入口を入った正面壁を飾る高浮彫である。全体は葡萄の木と蔓のモチーフにより四場面に分かれる。下段中央には、左の乳房に壺を当てた、葡萄の木の擬人像と思われる女性が立っている。下段左には、壁に石を積む職人と、竈の鉄を金槌で打って鍛える職人が立つ (図 25b)。下段右では、一人の農夫が道具を使って葡萄を収穫し、農婦が跪いて麦穂の束を揃えている (図 25c)。上段左では、葡萄蔓がからんだ屋根の下で、農作業用の道具に凭れて立つ男、膝の上に抱いた子供をみつめる老人、洗い物をする (?) 女、という家族の情景が見て取れる (図 25d)。上段右では、上方に葡萄蔓が伸びる中、医師が左手で椅子に座った女の脈をとり、右手に時計をもつ。右端では修道女が女の肩に手を置いている (図 25e)。このように、本浮彫は葡萄という自然の精を中心に、工業、農業、家族、慈善といったテーマを四方に配した構成となっている。

Bibl: M. Biancale, 1941, p.530 (illus.); F. Belfiore, B. Gravagnuolo, *Napoli -Architettura e urbanistica del Novecento*, Roma-Bari 1994, pp.183-184 e illus a p.184.

26. 《キリスト磔刑》(《アンドレア・バリオーニ墓碑》)、フィレンツェ、トレスピアーノ墓地、1938 年

*Crocifisso* (Sepolcro di Andrea Baglioni), Firenze, Cimitero di Trespiano

ヴィーニの親友フランチェスコ・バリオーニ (1893-1972 年) の父アンドレア (1938 年 1 月 28 日没) の墓碑で、ヴィーニ作《キリスト磔刑》(35 × 33 cm) が置かれている。フランチェスコの曾孫ジャンアンドレア・ジョヴァンナルディ氏によれば、アンドレアが没してから墓碑の建造が始まり、その完成は数か月後であったという。本墓碑にはフランチェスコ・バリオーニとジャンヌ・ボルガレッロ夫妻も埋葬されている。

27. 《天秤をもつ大天使》、《律法の板をもつ大天使》、高浮彫、大理石、ミラノ、裁判庁舎、サン・パルナバ通りに面する背面ファサード、1937-40 年

*Arcangeli con bilancia*, *Arcangeli con le tavole della legge*, Milano, Palazzo di Giustizia

ミラノの裁判庁舎はマルチェッロ・ピアチェンティーニの設計により 1931-41 年に建造された。同庁舎の装飾のため、1937 年から 39 年にかけて 140 点の作品が制作され、1940 年に完成した。ヴィーニの二点の「寓意像」浮彫もその一部をなす (G. Ginex [et. al.], *Il Palazzo di Giustizia di Milano -Le opere decorative*, in *Annitrenta -Arte e cultura in Italia*, Milano 1982, p.54)。

《天秤を持つ大天使》(入口左)

左の大天使は右手に剣を携え、右の大天使は右手で天秤を、左手で棒をもつ。

銘文：FIAT IVSTITIA NE PEREAT MVNDVS (世界が減びぬよう、正義をなせ)

《律法の板をもつ大天使》(入口右)

左の大天使は剣を、右の大天使は右手でオリーブの葉を、左手で銘帯をもつ。

銘文：IVSTITIA FVNDAMEN/TVM REGNORVM (正義は統治の基盤なり)

Bibl: G. Ginex, *Le opere decorative del Palazzo di Giustizia di Milano –Inventario*, in *Muri ai pittori –Pittura murale e decorazione in Italia 1930-1950*, cat. della mostra (Milano, Museo della Permanente, 1999-2000), Milano 1999, p.213.

28. 女性寓意像 (T.E.T.I 社のための)、所蔵先不明、1940 年

*Figura allegorica per la Società T.E.T.I.*, ubicazione ignota

ティレニア電話社 (Società telefonica tirrena, 略称 Società T.E.T.I.) は 1924 年にリヴォルノで創設され、中部イタリア、サルデーニャ、リグーリアを中心に電話の普及に貢献した。同社の活動は、1964 年に他の電話関連四社と合併して SIP (Società idroelettrica piemontese ピエモンテ水力発電社／後に Società italiana per l'esercizio telefonico イタリア電話事業社に社名変更) となるまで続いた。

本寓意像は、右手に巻き貝をもち、左手を耳に当てて音響を聴こうとする半裸の女性像が、楕円形の球体の上に腰を下ろしている。首から背にマントを羽織り、そのマントを腰の下に敷いている。球体の下には直方体の台座がある。

Bibl: M. Biancale, 1941, pp.529 (illus.) e 530.

29. 《帝国水道 5 月 5 日》、所蔵先不明、1940 年

*Acquedotto Imperiale IX Maggio*, ubicazione ignota

1940 年 5 月 8 日に、ムッソリーニにより除幕された。同水道を装飾する高浮彫の部分写真が翌日の新聞記事に掲載されたが、作品の現在の所在は不明。

Bibl: *La visita alle dighe di sbarramento del Turano e del bacino idroelettrico del Velino* ecc., “La Tribuna”, 9 maggio 1940 (illus.); “Il Popolo d’Italia”, 9 maggio 1940 (illus.).

30. 《聖家族》、低浮彫、ローマ、アウグスト・インペラトール広場、1941 年以前

*Sacra Famiglia*, Roma, Piazza Augusto Imperatore

横長の構図は二本の南方の樹木によって三区画に分かたれる。中央には、胡座する聖母が幼児キリストを膝に載せて左手で抱き、右手を挙げて傍らの少年洗礼者ヨハネに驚きを示している。左の区画で、ヨハネは跪いて左手で鳩をキリストに見せている。ヨハネの背後、構図の左端ではエリサベツがヨハネの背に左手を当てて跪き、右手を挙げて驚きを示している。

右の区画ではヨセフが跪き、左手で杖をもち、右手で顎を支えて思いに耽っている。ヨセフと聖母の間には二頭の羊がいる。

ビアンカーレの記事は図版掲載と「コッラード・ヴィーニ《聖家族》」というキャプション以外の消息を提供しない。ヴィッサーの研究は広場全体の政治的意味を考察しており、本作の図版掲載はあるものの作者ヴィーニへの言及がない。

Bibl: M. Biancale, 1941, p.530 (illus.); R. Visser, *Pax Augusta and Pax Mussoliniana –The fascist cult of the romanità and the use of “Augustan” conceptions at the Piazza Augusto Imperatore in Rome*, in *The Power of Imagery –Essays on Rome, Italy & Imagination*, ed. by Peter van Kessel, Roma 1993, pp.109-130, in particolare p.129 e fig.22.

31. 《家族の群像（？）》、ピアチェンツァ、全国保険機構会館、1942 年以前

*Un gruppo di famiglia*, Piacenza, Palazzo dell'INA, Piazza Cavalli

全国保険機構会館の塔の一部に設置された浮彫。馬上では裸の若者が右手を挙げて挨拶している。前方にはつるはしを右肩に担った先導役の若者が、後方には母親と少年の姿が見られる。

Bibl: *Un ritratto del Pontefice modellato da Corrado Vigni*, “L’Ambrosiano”, 3 aprile 1942.

32. 《教皇ピウス十二世》胸像、ローマ、ヴァティカン歴史博物館、1942 年

*Busto di Pio XII*, Roma, Museo Storico Vaticano

ピウス十二世（教皇在位 1939-58 年）の胸像で、峻厳で禁欲的な容貌が特徴的である。肩衣の刺繍が浮彫で表され、左右ともに、肩から胸にかけては、上段に書物を持って立つイエスと小さな天使が、下段に教皇冠、交差した鍵、紋章盾が表されている。

Bibl: “Tribuna”, 15 febbraio 1942 (illus.); *Un ritratto del Pontefice modellato da Corrado Vigni*, “L’Ambrosiano”, 3 aprile 1942 (illus.); *A Roma un pittore inglese incaricato di ritrarre il Papa*, “La Nazione Italiana”, 9 gennaio 1957, p.3.

33. 《受胎告知と七つの慈善行為》、《聖母、聖ゲオルギウス、聖ロクス》、ボディオ・ロムナーゴ、サン・ジョルジョ聖堂、1943 年

*L’annunciazione e Opere della Misericordia, Madonna fra i santi Giorgio e Rocco*, Bodio Lomnago, Chiesa di San Giorgio

サン・ジョルジョ聖堂は 1919-21 年にロムナーゴ伯ピエロ・プリチェッリ上院議員により建造された。この人物は世界初的高速道路をミラノ〜ヴァレーゼ間に開通させた実業家としても知られる。本聖堂が位置するバルトロメオ・バイ通りは彼のヴィッラへと通じ、イタリアで初めてアスファルト舗装された。ヴィーニの祭壇はシチリア州マルサラのフローリオ侯爵夫妻よりプリチェッリに寄進された。聖堂の管理人によれば、本作はプリチェッリの妻ア

ントニエッタ・トージの没後に委嘱され、《受胎告知》の聖母の容貌は妻アントニエッタの肖像であるという。

祭壇最上層の《受胎告知》では、構図の中央でクッションの上に両肘を凭せかけた聖母に、右から大天使ガブリエルが救世主懐妊を告知している。左端には建築モチーフが表されている。天使の左手の上のモチーフは今日では識別困難である。

第二層左手には《飢えた者に食を与える》、右手には《渴く者に飲み物を与える》、第三層左手には《裸の者に衣服を与える》、右手には《旅人に宿を貸す》、第四層左手には《病人と囚人を見舞う》、右手には《死者を埋葬する》と、七つの慈善行為が表されている。

基部浮彫では、二人の小さな天使が銘帯を左右から支えている。銘帯には以下の記銘がある。PREGATE DIO CHE VI DIA SEMPRE / LA FORZA DI ESSERE BVONI: LA / BONTÀ FA MIRACOLI NEL MONDO (私たちに善人たらしめる力をつねにお与え下さい、と神に祈りなさい。善はこの世に奇跡をなすのです)。また外枠下端に CORRADO VIGNI SCULTORE FIRENZE MCMXLIII (コッラード・ヴィーニ、彫刻家、フィレンツェ、1943 年) という署名・年記がある。

《聖母、聖ゲオルギウス、聖ロクス》(図 33d) は聖堂入口上方のチュンパヌムに設置され、右下方の枠に C.VIGNI という署名がある。中央の聖母は正面観で首をやや左に傾け、両手を左右に拡げている。左手には十字架のついたロザリオが握られている。向かって左には、甲冑を着て剣に両手を凭せかけた男性が、また向かって右には、両手で支え持つ巡礼杖に瓢箪の水筒をくりつけた男性が、それぞれ聖母の側に頭を傾け、そちらに視線を落としている。二人の男性は本聖堂の名義聖人である聖ゲオルギウスと聖ロクスを表すと思われる。

Bibl: F. Copertini, 2006, pp.59-60; Mitrano, 2008, p.218 (但し 1921 年の制作と誤記)。

#### 34. 《聖ニコラス・フォン・フリュエ》、ローマ、サンテウジェニオ聖堂、1943/50 年の間 *San Nicolao da Flue*, Roma, Chiesa di Sant'Eugenio

サンテウジェニオ聖堂入口左手の第一礼拝堂に現存。本聖堂は教皇ピウス十二世の司教就任 25 周年を記念して 1943 年に着手され、1950 年に完成した。

スイス出身で同国の守護聖人である聖ニコラス・フォン・フリュエ (1417-87 年) がロザリオを手に正面観で直立している。背景には聖人の故国を暗示するアルプス風景が描かれている。聖人の物語を表した裾浮彫<sup>フレデッラ</sup>には、左から順に、子沢山の父親時代、判事時代の仲裁場面、そしてスイスのランフトに隠遁後、出現したイエスの顔に跪いて祈る隠修士時代の情景が表されている。

なお、聖人像の手前に置かれたブロンズ製《キリスト磔刑》もヴィーニの手になると思われる。

Bibl: *Guida Rossa, Roma*, p.753; A. Prandi, *La Basilica di S. Eugenio*, Roma s.a. [1958?], pp.50-51 e fig.17; V. Vicario, 1994, 2, pp.1094-1095.



35. 《洗礼を施す天使》(トルヴァルセンの模刻、アイスランド、アークレイリ聖堂)、1952 年  
*Angelo battezzante* (copia da Thorvaldsen), Akureyri Churchi

トルヴァルセンが 1823 年にコペンハーゲン大聖堂のため制作した原作の忠実な模作。1952 年にガンヒルダー・ライエル (Gunnhildur Ryl) とバルダー・ライエル (Baldur Ryl) の依頼でアークレイリ聖堂に寄進された。同聖堂はグディオ・サムエルソンの設計で 1940 年 11 月 17 日に建造された。

Bibl: [http://www.visitakureyri.is/static/files/visitakureyri2008//Akureyrarkirkja\\_Enskatyska.pdf](http://www.visitakureyri.is/static/files/visitakureyri2008//Akureyrarkirkja_Enskatyska.pdf) (2016 年 1 月 27 日取得)

36. 《聖母子と天使たち》、低浮彫、ヴェローナ、クオーレ・インマコラート・ディ・マリア聖堂、1952 年

*Madonna sorretta da angeli*, Verona, Chiesa del Cuore Immacolato di Maria (Tempio Votivo)

1943 年 9 月 8 日、ヴェローナ司教ジロラモ・カルディナーレは第二次世界大戦の惨禍を予感し、市民の名において同地で誓願を行った。終戦後の 1950 年 12 月 8 日にパオロ・ロッシ・デ・パオリの設計によりこの祈念聖堂の建造が開始され、二年後の同月同日に除幕、1958 年 5 月 13 日に司教ウルバーニにより聖別された。1965 年に記念聖堂は廃止され、フランシスコ会厳修派の管轄下に入った。クオーレ・インマコラート・ディ・マリア、すなわち「聖母マリアの無垢の心臓」への信仰は 17 世紀に始まるが、1944 年に教皇ピウス十二世により全カトリック教会の儀礼として承認された。

ヴェローナ中央駅から遠望できるクオーレ・インマコラート・ディ・マリア聖堂ファサード上方中央に、マンドルラに囲まれた聖母子と、それを取り巻く左右八人ずつの天使たちを表した浮彫が設置されている。浮彫の中央頂部では聖霊の鳩が放射状の光を放って聖母へと下降する。上から一番目と二番目の、左右計四人の天使は、マンドルラの上方から、一枚の大きな布を手で垂らしている。上から三番目の天使は、左右ともに花冠を捧げ持つ。四番目は、左では両手を組んで祈り、右では両腕を胸の前で十字に組んで恭順の意を示している。五番目と六番目は、左右ともにマンドルラの下端に手をかけて支えている。七番目は左右ともに大きなラッパを吹き鳴らす。最下段の天使は左右から IN HOC VINCE[S] (お前はこれによって勝利するであろう) と記された銘帯を持つ。銘文は、ミルウィウス橋の戦いの前、ローマ皇帝コンスタンティヌスに対し、天空に十字架とともに出現した言葉 in hoc signo vinces (お前はこの印の下で勝利するであろう) に由来する。

浮彫の下方には以下の記銘がある。FORTIS VT MORS MATER / ACIEBVS TERRIBILIOR (母は死の如く強く、／戦場より畏るべし)

Bibl: F. Copertini, 2006, p.61.

37. 《聖母子》壁龕、フィレンツェ、パンザーニ通り、1955 年

Tabernacolo con la *Madonna col Bambino*, Firenze, via Panzani

ヴィーニ最晩年の聖母子像だが、ルネサンス様式を回顧する擬古的作風である。穏やかな表情の聖母は矩形の基台の上に上半身のみ表され、腰を下ろした姿勢の幼児イエスを両手で抱きかかえている。コペルティーニが伝えるところでは、ヴィーニの構想は助手のカルディーニにより大理石に彫られたという。

Bibl: F. Copertini, 2006, p.61.

コッラード・ヴィーニ関連文献 (Bibliografia su Corrado Vigni)

- R. Franchi, *Mostra toscana novecentesca –Scultura*, “Illustrazione toscana”, novembre 1926, p.32.
- *La XV esposizione internazionale d'arte della città di Venezia –1926*, prefazione di V. Pica, Milano 1926, p.44 e tav.147.
- M. Romano, *La scultura di Vigni*, “Augustea”, 30 novembre 1933.
- F. Saporì, *Artisti d'oggi –Corrado Vigni e la giovane scultura italiana*, “Emporium”, 79, marzo 1934, pp.130-142.
- I. Tavolato, *Scultura di Corrado Vigni –XXI tavole e prefazione di Italo Tavolato*, Milano 1934.
- M. Biancale, *La scultura di Corrado Vigni*, “Illustrazione italiana”, 13 aprile 1941, pp.528-530.
- A. Riccoboni, *Roma nell'arte –La scultura nell'evo moderno*, Roma 1942, pp.541-542.
- A. M. Bessone-Aurelj, *Dizionario degli scultori e degli architetti italiani*, Città di Castello 1947, p.500.
- F. Saporì, *Scultura italiana moderna*, Roma 1949, p.476 e tavv. a pp.394-395.
- *Angiolo Mazzoni (1894-1979) –architetto nell'Italia tra le due guerre*, a cura di Adelaide Auregli, Bologna 1984.
- M. Pratesi, G. Uzzani, *L'arte italiana del Novecento –La Toscana*, Venezia 1991, p.153 e p.204.
- V. Vicario, *Gli scultori italiani dal Neoclassicismo al Liberty*, Lodi 1994, 2, pp.1094-1095.
- A. Panzetta, *Dizionario degli scultori italiani dell'Ottocento e del primo Novecento*, Torino 1994, 1, p.279 e 2, tav. a p.203.
- G. Salvagnini, *Un secolo di scultura sul colle di Trespiano*, “Libero”, 8, 1996, pp.23, 53, 93.
- *Il giardino della memoria –I busti dei grandi italiani al Pincio*, a cura di Alessandro Cremona, Sabina Guisci, Alessandra Ponente, Roma 1999, p.78, p.82 e nota 8, p.131.
- A. P. Torresi, *Scultori d'Accademia –Dizionario biografico di maestri, allievi e soci dell'Accademia di Belle Arti di Firenze (1750-1915)*, Ferrara 2000, p.128 e tavv. a p.249.
- *X Biennale Internazionale Città di Carrara etc.*, cat. della mostra, a cura di A. V. Laghi, Siena 2000, p.84.
- *Porte Sante –il cimitero di San Miniato a Firenze*, a cura di Gigi Salvagnini, Firenze 2001, p.78, 84, 87.
- C. Sirigatti, *Dee in pullover*, “Artista”, 2002, pp.60-77.
- *Angiolo Mazzoni (1894-1979) –architetto ingegnere del Ministero delle Comunicazioni*, a cura di Gabriella Belli, Ginevra etc. 2003.
- A. Panzetta, *Nuovo dizionario degli scultori italiani dell'Ottocento e del primo Novecento*, Borgaro (Torino) 2003, p.954, p.972.
- F. Copertini, *Il risveglio –Ricordo dello scultore Corrado Vigni*, “Elba d'Arno”, 103, 2006, pp.55-61.
- N. Kai, *Bozzetti inediti di Corrado Vigni, per Sabaudia e Bolzano*, 『五浦論叢』(茨城大学五浦美術文化研究所紀要)、第十七号、二〇一〇年、(1)-(26) 頁 (“The Izura Bulletin” [Izura Institute of Art and Culture, Ibaraki University], 17, 2010, pp.(1)-(26)).
- N. Kai, *Corrado Vigni e l'intelligenza umana*, “Artista”, 2010, pp.142-149.
- F. Copertini Amati, *Per ville e per giardini (sorprese d'arte e archeologia alle porte di Firenze)*, “Elba d'Arno”, 2011, pp.57-64.



- 甲斐教行「コッラード・ヴィーニ作ラグーサ郵政電信庁舎寓意像小論」、『五浦論叢』（茨城大学五浦美術文化研究所紀要）、第二十号、二〇一三年、一一—三六頁（N. Kai, *Per Corrado Vigni –Statue allegoriche del Palazzo delle Poste e telegrafi di Ragusa*, “The Izura Bulletin” [Izura Institute of Art and Culture, Ibaraki University], 20, 2013, pp.1-36）.
- 甲斐教行「コッラード・ヴィーニの公共彫刻——モンテカティーニ・テルメおよびテルニの作例について」、『五浦論叢』（茨城大学五浦美術文化研究所紀要）、第二十二号、二〇一五年、一九—五二頁（N. Kai, *Le sculture pubbliche di Corrado Vigni, per Montecatini Terme e Terni*, “The Izura Bulletin” [Izura Institute of Art and Culture, Ibaraki University], 22, 2015, pp.19-52）.
- F. Mastrucci, *Pro-memoria*, dattiloscritto, s. a.
- G. Giovannardi, *Corrado Vigni e la sua scultura*, dattiloscritto, s. a. [2003ca.].

本研究は、平成 26-28 年度文部科学省科学研究費助成（基盤研究（C））の成果の一部である。

〔かい のりゆき／所員・本学教育学部教授〕



図 1a 《ラヴァロッチ夫妻墓碑》、フィレンツェ、  
ボルテ・サンテ墓地  
*Sepolcro Lavarotti. Firenze, Cimitero delle Porte Sante.*



図 1b 同 部分(コッラード・ヴィーニ《ジェニー・  
デメトリアルキ・ラヴァロッチの肖像》)  
*Particolare (C. Vigni, Ritratto di Jenny Demetriarchi  
Lavarotti, 1920).*



図 2a コッラード・ヴィーニ《アッティリオ・ピアッ  
ツェージ墓碑》、フィレンツェ、ボルテ・サンテ墓地  
*C. Vigni, Sepolcro di Attilio Piazzesi, 1922. Firenze,*  
*Cimitero delle Porte Sante.*



図 2b 同 部分  
*Particolare della fig.2a.*



図3a 《ヴェーラ・ジュステイ墓碑》、  
フィレンツェ、ポルテ・サンテ墓地  
*Sepolcro di Vera Giusti*, 1923. Firenze,  
Cimitero delle Porte Sante.



図3b 同 背面観  
*Sepolcro di Vera Giusti*, lato posteriore.



図3c 同 部分 (コッラード・ヴィーニ《ヴェー  
ラ・ジュステイの肖像》)  
Particolare della fig.3a (C. Vigni, *Ritratto di Vera Giusti*).



図3d 同 部分 (署名)  
Particolare della fig.3c (firma)





図 4a ローマ、国鉄職工クラブ付属劇場（《ウェヌスの誕生》を含む）  
Roma, Dopolavoro Ferroviario, Teatro (con la *Nascita di Venere*, ante 1925, perduto).  
foto: MART, Maz. B4. f.2/33.



図 4b-1 同（《オルフェウスの死》を含む）  
Roma, Dopolavoro Ferroviario, Teatro (con la *Morte di Orfeo*, ante 1925, perduto).  
foto: MART, Maz. B4. f.2/34.



図 4c ヴィーニのアトリエ 《オルフェウスの死》のジェッソ、左から、フランチェスコ・パリオーニと妻ジャンヌ・ボルガレロ、二人おいてコッラード・ヴィーニ) L'atelier di Vigni (Francesco Baglioni e la moglie Jeanne Borgarello, Corrado Vigni, col gesso per la *Morte di Orfeo* nello sfondo). foto: Archivio Giovannardi.



図 4b-2 同 Roma, Dopolavoro Ferroviario, Teatro (con la *Morte di Orfeo*).  
foto: MART, Maz. B4. f.2/32.



図 5a コッラード・ヴィーニ《ディアナと鹿》、ブロンズ、パレルモ、郵政電信庁舎、会議室  
C. Vigni, *Diana giovane*, bronzo, 1926. Palermo, Palazzo delle Poste, Sala delle conferenze.



図 5b コッラード・ヴィーニ《ディアナと鹿》、テラコッタ、カステッリーナ・イン・キャンティ（シエナ）、ボルゴ・ディ・ピエトラフィッタ・リレー  
C. Vigni, *Diana giovane*, terracotta. Castellina in Chianti (SI), Borgo di Pietrafitta Relais.



図 6a 《ボルガレッロ家墓廟》、ジェノヴァ、スタリエーノ墓地  
*Sepolcro Borgarello*, Genova, Cimitero monumentale di Staglieno.





図 6b 同 部分 (コッラード・ヴィーニ 《聖母子と二人の熾天使》)  
Particolare della fig.6a (C. Vigni, *Madonna col Bambino e due serafini*, 1926).



図 6c 同 部分 (コッラード・ヴィーニ 《聖母子》)  
Particolare della fig.6b (C. Vigni, *Madonna col Bambino*).





図 6d 図 6a 部分 (コッラード・ヴィーニ《天使》)  
Particolare della fig.6a (C. Vigni, *un angelo*, 1926).

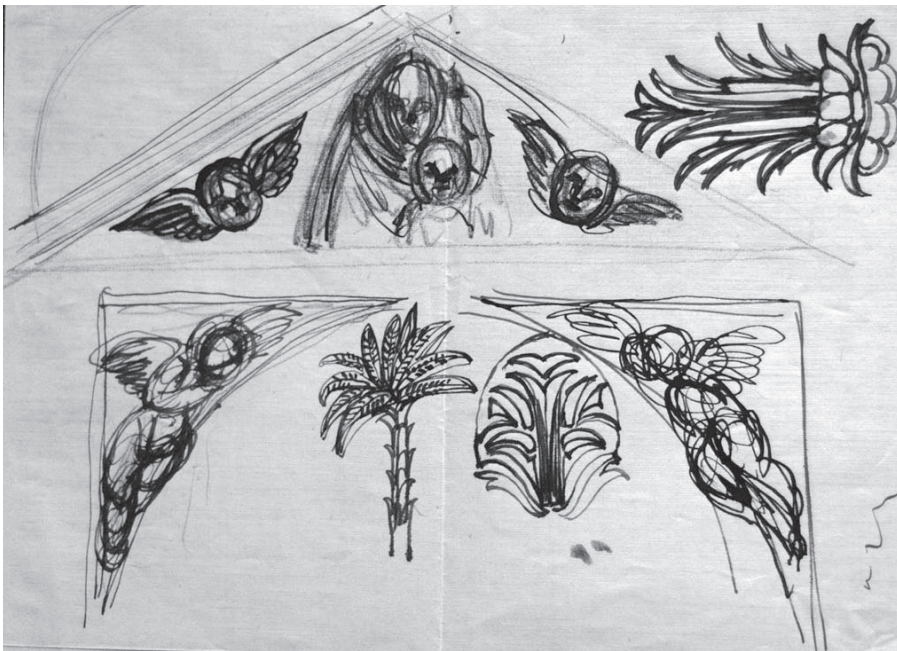


図 6f コッラード・ヴィーニ「ボルガレッロ家墓廟」のための習作素描、フィレンツェ、個人蔵  
C. Vigni, disegno per il *Sepolcro Borgarello*, Collezione privata.



図 6e 図 6a 部分 (コッラード・ヴィーニ 《天使》)  
Particolare della fig.6a (C. Vigni, *un angelo*, 1926).



図 7 コッラード・ヴィーニ 《聖フランチェスコ》、所蔵先不明  
C. Vigni, *San Francesco*, ubicazione ignota (già a Piombino). foto: Archivio Giovannardi.



図 8a ウーゴ・ジョヴァンノッツィ 《テットウッチョ浴場》、モンテカティーニ・テルメ  
Ugo Giovanozzi, *Stabilimento Tettuccio*, Montecatini Terme.



図 8b コッラード・ヴィーニ《泉》、モンテカ  
ティニー・テルメ、テットウッチョ浴場  
C. Vigni, *La Sorgente*, 1927. Montecatini Terme,  
Stabilimento Tettuccio.



図 8c コッラード・ヴィーニ《薬》、モンテカ  
ティニー・テルメ、テットウッチョ浴場  
C. Vigni, *La Medicina*, 1927. Montecatini Terme,  
Stabilimento Tettuccio.



図 8d コッラード・ヴィーニ《衛生》、モンテ  
カティニー・テルメ、テットウッチョ浴場  
C. Vigni, *L'Igiene*, 1927. Montecatini Terme,  
Stabilimento Tettuccio.



図 8e コッラード・ヴィーニ《健康》、モンテ  
カティニー・テルメ、テットウッチョ浴場  
C. Vigni, *La Salute*, 1927. Montecatini Terme,  
Stabilimento Tettuccio.





図9a 《カステルフランコ・ディ・ソット戦没者記念碑》

C. Vigni, *Monumento ai caduti di Castelfranco di Sotto*, 1927.



図9b 同 部分 (コッラード・ヴィーニ《母と子》)

Particolare della fig.9a (C. Vigni, *Madre e figlio*).



図11a コッラード・ヴィーニ《フィリッポ・キオッフィ墓碑》、フィレンツェ、トレスピアーノ墓地

C. Vigni, *Lapide di Filippo Chioffi*, 1929. Firenze, Cimitero di Trespiano.



図11b 同 部分 (署名・年記)  
Particolare della fig.11a (firma e data)



図 10a メダル授与の情景

Consegna di medaglie commemorative per il 25<sup>mo</sup> del Hotel Baglioni, 1928 (foto: Archivio Giovannardi).



図 10b 銀メダル、表  
Medaglia d'argento, recto.



図 10c 銀メダル、裏  
Medaglia d'argento, verso.





図 10d ブロンズ製メダル、表、フィレンツェ、個人蔵  
Medaglia in bronzo, recto. Firenze, collezione privata.



図 10e ブロンズ製メダル、裏、フィレンツェ、個人蔵  
Medaglia in bronzo, verso. Firenze, collezione privata.



図 10f コッラード・ヴィーニ《ケレス》、テラコッタ、個人蔵  
C. Vigni, *Cerere*, terracotta, 1928. Collezione privata.



図 10g ヴィーニのアトリエ (《羊飼い》立像、《羊飼い》浮彫、《ケレス》を含む)、1928 年  
L'atelier di Vigni (statue di *Pastore*, bassorilievo con *Pastore*, *Cerere*), 1928 (foto: Archivio Giovannardi).



図 12a マルチェッロ・ピアチェンティーニ 《アドリア海保険連合会館》、プレッシャ、ヴィットーリア広場  
Marcello Piacentini, *Palazzo RAS* (Riunione Adriatica di Sicurtà), 1930-32. Brescia, Piazza della Vittoria.



図 12b コッラード・ヴィーニ 《聖マルコの獅子》、プレッシャ、アドリア海保険連合会館  
C. Vigni, *Leone di san Marco*, 1931. Brescia, Palazzo RAS.



図 13a アンジョロ・マッツォーニ 《郵政電信庁舎》、ラゲーサ  
Angiolo Mazzoni, *Palazzo delle Poste e telegrafi*, Ragusa.



図 13b コッラード・ヴィーニ 《航空通信》、ラゲーサ、郵政電信庁舎  
C. Vigni, *Le comunicazioni aeree*, 1932. Ragusa, Palazzo delle Poste e telegrafi.



図 13c コッラード・ヴィーニ 《電気通信》、ラゲーサ、郵政電信庁舎  
C. Vigni, *Le comunicazioni elettriche*, 1932. Ragusa, Palazzo delle Poste e telegrafi.





図 13d コッラード・ヴィーニ 《アジア》、ラ  
グーサ、郵政電信庁舎  
C. Vigni, *L'Asia*, 1932. Ragusa, Palazzo delle Poste  
e telegrafi.



図 13e コッラード・ヴィーニ 《アフリカ》、ラ  
グーサ、郵政電信庁舎  
C. Vigni, *L'Africa*, 1932. Ragusa, Palazzo delle  
Poste e telegrafi.



図 13f コッラード・ヴィーニ 《ヨーロッパ》、  
ラグーサ、郵政電信庁舎  
C. Vigni, *L'Europa*, 1932. Ragusa, Palazzo delle  
Poste e telegrafi.



図 13g コッラード・ヴィーニ 《アメリカ》、ラ  
グーサ、郵政電信庁舎  
C. Vigni, *L'America*, 1932. Ragusa, Palazzo delle  
Poste e telegrafi.



図 13h コッラード・ヴィーニ 《オセアニア》、ラグーサ、郵政電信庁舎  
C. Vigni, *L'Oceania*, 1932. Ragusa, Palazzo delle Poste e telegrafi.



図 13i コッラード・ヴィーニ 《船舶通信》、ラグーサ、郵政電信庁舎  
C. Vigni, *Le comunicazioni marittime*, 1932. Ragusa, Palazzo delle Poste e telegrafi.

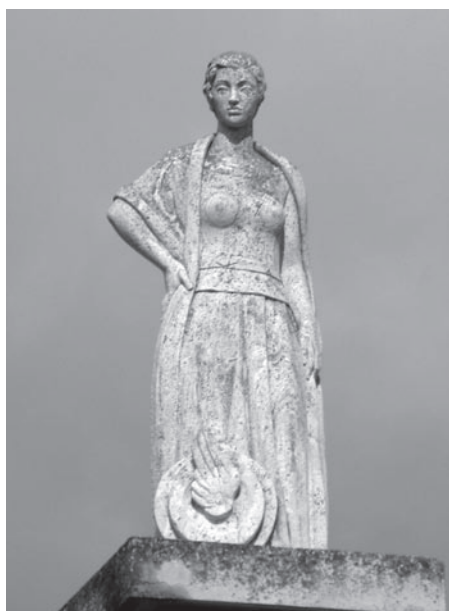


図 13j コッラード・ヴィーニ 《陸上通信》、ラグーサ、郵政電信庁舎  
C. Vigni, *Le comunicazioni terrestri*, 1932. Ragusa, Palazzo delle Poste e telegrafi.



図 13k コッラード・ヴィーニ 《戦没郵政電信士記念碑》、ラグーサ、郵政電信庁舎  
C. Vigni, *Monumento ai postelegrafici caduti per la Patria*. Ragusa, Palazzo delle Poste e telegrafi.





図 13m コッラード・ヴィーニ 《水兵》、ラグーサ、郵政電信庁舎  
C. Vigni, *Il marinaio* (*Monumento ai postelegrafici caduti per la Patria*), 1932.



図 13l コッラード・ヴィーニ 《歩兵》、ラグーサ、郵政電信庁舎  
C. Vigni, *Il fante* (*Monumento ai postelegrafici caduti per la Patria*), 1932.



(図 14a) 《キリスト磔刑》、所蔵先不明  
*Cristo Crocifisso con la Vergine, san Giovanni Evangelista e la Maddalena* (per un cimitero del Nord America), bronzo, 1932. Ubicazione ignota.



(図 14b) コッラード・ヴィーニ 《磔刑のキリスト》習作、ジェッソ、個人蔵  
C. Vigni, modello per il *Cristo Crocifisso*, gesso. Collezione privata.



(図 14c) 同 部分  
Particolare del modello per il *Cristo Crocifisso*.



(図 14e) コッラード・ヴィーニ 《マグダラのマリア》習作  
C. Vigni, modello per *Maria Maddalena* nell'atelier di Vigni (foto: Archivio Giovannardi)



(図 14d) コッラード・ヴィーニ 《福音書記者ヨハネ》習作  
C. Vigni, modello per *San Giovanni Evangelista* nell'atelier di Vigni (foto: Archivio Giovannardi)



図 15a コッラード・ヴィーニ《火力発電》、フィレンツェ、国立労働銀行  
C. Vigni, *Produzione di energia termoelettrica*, 1933ca. Firenze, Banca Nazionale del Lavoro (via Cerretani).



図 15a-1 同 部分  
Particolare della *Produzione di energia termoelettrica*.



図 15b コッラード・ヴィーニ《水力発電》、フィレンツェ、国立労働銀行  
C. Vigni, *Produzione di energia idroelettrica*, 1933ca. Firenze, Banca Nazionale del Lavoro (via Cerretani).



図 15b-1 同 部分  
Particolare della *Produzione di energia idroelettrica*.





図 15c コッラード・ヴィーニ 《電力》、フィレンツェ、国立労働銀行  
C. Vigni, *Eletticità*, 1933ca. Firenze, Banca Nazionale del Lavoro (via Cerretani).



図 15c-1 同 部分  
Particolare dell' *Eletticità*.



図 16a コッラード・ヴィーニ 《ピラトの前のキリスト》、ローマ、サン・ロベルト・ベッラルミーノ聖堂  
C. Vigni, *Cristo davanti a Pilato*, post 1933. Roma, Chiesa di San Roberto Bellarmino.



図 16b コッラード・ヴィーニ 《十字架運び》、ローマ、サン・ロベルト・ベッラルミーノ聖堂  
C. Vigni, *Cristo portacroce*, post 1933. Roma, Chiesa di San Roberto Bellarmino.

図 16a-1 《ピラトの前のキリスト》部分 (署名)  
Particolare della fig.16a (firma)





図 16c コッラード・ヴィーニ《十字架運び (キリスト倒れる)》、ローマ、サン・ロベルト・ベッラルミーノ聖堂  
C. Vigni, *Cristo portacroce (Caduta di Cristo)*, post 1933. Roma, Chiesa di San Roberto Bellarmino.



図 16e コッラード・ヴィーニ《十字架運び (クレネ人シモン)》、ローマ、サン・ロベルト・ベッラルミーノ聖堂  
C. Vigni, *Cristo portacroce (Simon Cireneo)*, post 1933. Roma, Chiesa di San Roberto Bellarmino.



図 16d コッラード・ヴィーニ《十字架運び (跪くキリストと聖母)》、ローマ、サン・ロベルト・ベッラルミーノ聖堂  
C. Vigni, *Cristo portacroce (Cristo inginocchiato e la Vergine)*, post 1933. Roma, Chiesa di San Roberto Bellarmino.



図 16f コッラード・ヴィーニ《十字架運びと聖女ヴェロニカ》、ローマ、サン・ロベルト・ベッラルミーノ聖堂  
C. Vigni, *Cristo portacroce con santa Veronica*, post 1933. Roma, Chiesa di San Roberto Bellarmino.





図 16g コッラード・ヴィーニ《十字架運び(キリスト倒れる)》、ローマ、サン・ロベルト・ベッラルミノ聖堂  
C. Vigni, *Cristo portacroce (Caduta di Cristo)*, post 1933. Roma, Chiesa di San Roberto Bellarmino.



図 16i コッラード・ヴィーニ《十字架運び(キリスト倒れる)》、ローマ、サン・ロベルト・ベッラルミノ聖堂  
C. Vigni, *Cristo portacroce (Caduta di Cristo)*, post 1933. Roma, Chiesa di San Roberto Bellarmino.



図 16h コッラード・ヴィーニ《十字架運びと二人の女》、ローマ、サン・ロベルト・ベッラルミノ聖堂  
C. Vigni, *Cristo portacroce con due donne*, post 1933. Roma, Chiesa di San Roberto Bellarmino.



図 16j コッラード・ヴィーニ《支えられるキリスト》、ローマ、サン・ロベルト・ベッラルミノ聖堂  
C. Vigni, *Cristo sorretto*, post 1933. Roma, Chiesa di San Roberto Bellarmino.



図 16k コッラード・ヴィーニ《十字架への釘打ち》、ローマ、サン・ロベルト・ベッラルミーノ聖堂  
C. Vigni, *Cristo inchiodato alla Croce*, post 1933. Roma, Chiesa di San Roberto Bellarmino.



図 16l コッラード・ヴィーニ《キリスト磔刑》、ローマ、サン・ロベルト・ベッラルミーノ聖堂  
C. Vigni, *Cristo Crocifisso*, post 1933. Roma, Chiesa di San Roberto Bellarmino.



図 16m コッラード・ヴィーニ《十字架から降ろされたキリストの哀悼》、ローマ、サン・ロベルト・ベッラルミーノ聖堂  
C. Vigni, *Lamentazione di Cristo deposto*, post 1933. Roma, Chiesa di San Roberto Bellarmino.



図 16n コッラード・ヴィーニ《キリスト埋葬》、ローマ、サン・ロベルト・ベッラルミーノ聖堂  
C. Vigni, *Sepoltura di Cristo*, post 1933. Roma, Chiesa di San Roberto Bellarmino.





図 17a 主祭壇浮彫（アルフレード・ピアジーニ《最後の晩餐》、コッラード・ヴィーニ《聖杯をもつ天使》）、ローマ、クリスト・レ聖堂

Alfredo Biagini, *L'ultima cena*; C. Vigni, *Due angeli con calice* (per il ciborio dell'Altare maggiore), Roma, Chiesa del Cristo Re.



図 17b 同 部分（コッラード・ヴィーニ《聖杯をもつ天使》）

Idem, particolare (C. Vigni, *Due angeli con calice*, ante 1934).



図 17d コッラード・ヴィーニ《灯明をもつ二人の天使》（左）、ローマ、クリスト・レ聖堂  
C. Vigni, *Due lampade votive sorrette da due angeli* (sinistra), ante 1934. Roma, Chiesa del Cristo Re.



図 17c コッラード・ヴィーニ《灯明をもつ二人の天使》（右）、ローマ、クリスト・レ聖堂  
C. Vigni, *Due lampade votive sorrette da due angeli* (destra), ante 1934. Roma, Chiesa del Cristo Re.



図 17e 洗礼盤、ローマ、クリスト・レ聖堂  
Fonte battesimale, ante 1934. Roma, Chiesa del Cristo Re.



図 17f コッラード・ヴィーニ《キリスト洗礼》  
正面観  
C. Vigni, *Il battesimo di Gesù* (fonte battesimale),  
ante 1934, lato frontale.

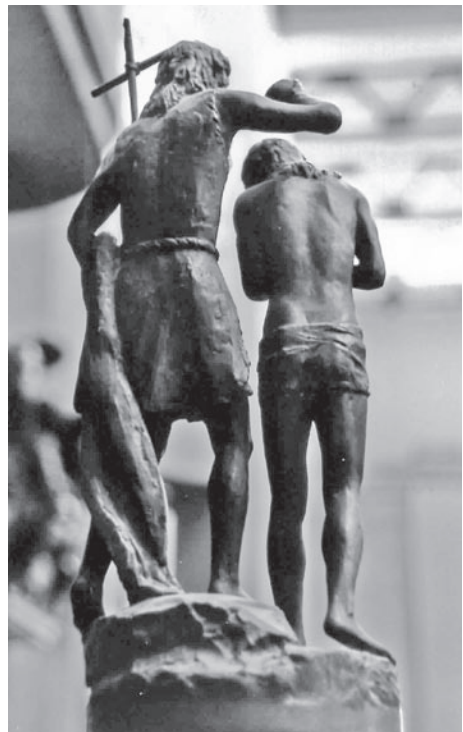


図 17g コッラード・ヴィーニ《キリスト洗礼》  
背面観  
C. Vigni, *Il battesimo di Gesù* (fonte battesimale),  
ante 1934, lato posteriore.



図18 コッラード・ヴィーニ《聖体顕示台用玉座をもつ二人の天使》、ローマ、サンティッポーリト聖堂旧蔵  
C. Vigni, *Due angeli sorreggenti il tronetto per l'Ostensorio dell'Altare maggiore*, ante 1934. Già Roma, Chiesa di Sant'Ippolito.



図19 コッラード・ヴィーニ《ヴィットーリオ・モンティリオ》、ローマ、ピンチョ公園  
C. Vigni, *Busto di Vittorio Montiglio*, 1934. Roma, Pincio.



図20a コッラード・ヴィーニ《われは主のはしため》、サバウディア、サンティッシマ・アヌンツィアータ聖堂  
C. Vigni, *Ecce Ancilla Domini*, 1935. Sabaudia, Chiesa della Santissima Annunziata.



図20b 同 部分  
Particolare dell' *Ecce Ancilla Domini*.





図 20c 同 部分  
Particolare dell' *Ecce Ancilla Domini*.



図 20d 同 部分 (記銘)  
Particolare dell' *Ecce Ancilla Domini*  
(iscrizione).



図 20e 同 部分 (署名)  
Particolare dell' *Ecce Ancilla Domini*  
(firma).



図 21b コッラード・ヴィーニ《ディオスクロイ》(左)、ローマ、ラ・サピエンツァ大学、法学部  
C. Vigni, *I Dioscuri* (sinistra), 1935. Roma, Università La Sapienza, Edificio di Giurisprudenza.



図 21a コッラード・ヴィーニ《ディオスクロイ》(右)、ローマ、ラ・サピエンツァ大学、文学部  
C. Vigni, *I Dioscuri* (destra), 1935. Roma, Università La Sapienza, Edificio di Lettere.

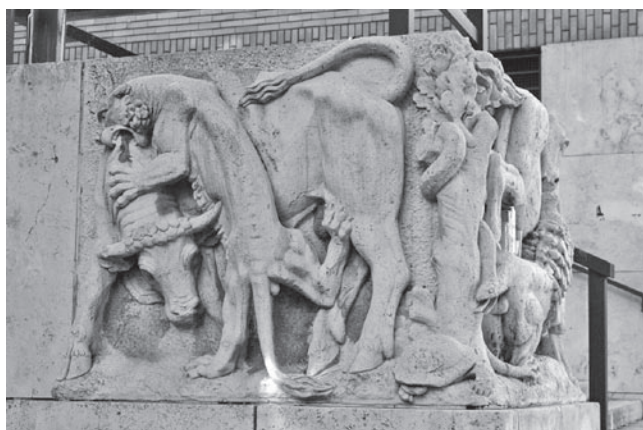


図 21c コッラード・ヴィーニ《雄牛と闘う雌獅子》、ローマ、ラ・サピエンツァ大学、物理学部  
C. Vigni, *Leoneessa contro toro*, 1935. Roma, Università La Sapienza, sul lato sinistro della scalinata esterna dell'edificio di Fisica.



図 21e 同 部分 (署名)  
Particolare della fig.21c (firma).



図 21d コッラード・ヴィーニ《馬と闘う獅子》、ローマ、ラ・サピエンツァ大学、物理学部  
C. Vigni, *Leone contro cavallo*, 1935. Roma, Università La Sapienza, sul lato sinistro della scalinata esterna dell'edificio di Fisica.



図 21f コッラード・ヴィーニ《仔鹿と闘う雌獅子》、ローマ、ラ・サピエンツァ大学、物理学部  
C. Vigni, *Leonessa contro cerbiatto*, 1935. Roma, Università La Sapienza, cortile interno dell'edificio di Fisica.



図 21g 同  
*Leonessa contro cerbiatto*, lato opposto.



図 21h コッラード・ヴィーニ《仔鹿と闘う雌獅子》、テラコッタ、フィレンツェ、グラン  
テ・ホテル・バリオーニ  
C. Vigni, *Leonessa contro cerbiatto*. Firenze, Grande Hotel Baglioni.



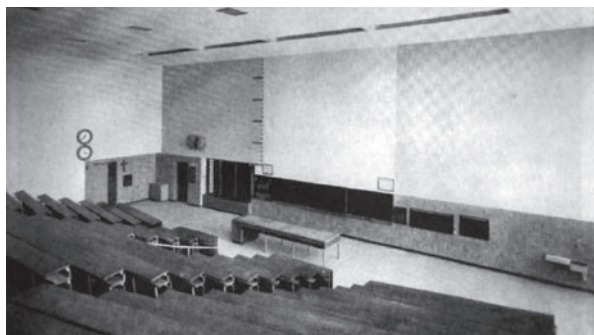


図 21i コッラード・ヴィーニ《キリスト磔刑》のある教室、ローマ、ラ・サピエンツァ大学  
Un'aula con un *Crocifisso* di C. Vigni.  
Già Roma, Università La Sapienza.



図 22a コッラード・ヴィーニ《ネーラ河とヴェリーノ河》、テルニ、大聖堂広場  
C. Vigni, *Il Nera e il Velino*, 1935. Terni, Piazza del Duomo.

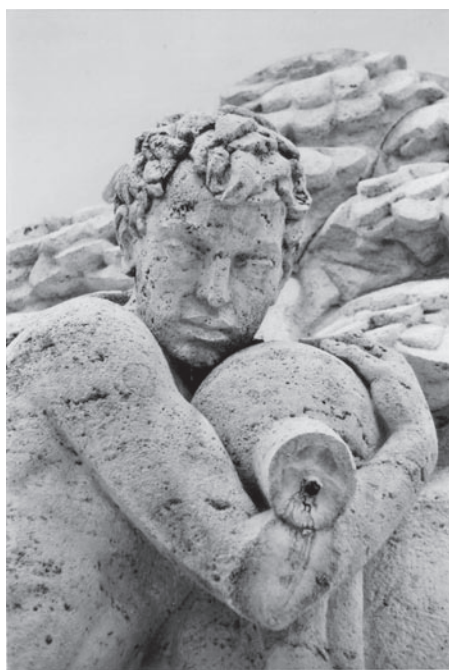


図 22b 同 部分 (《ヴェリーノ河》)  
Particolare della fig.22a (*Il Velino*).



図 22c 同 部分 (《ネーラ河》)  
Particolare della fig.22a (*Il Nera*).





図 23a ガエタノ・コッポリ、テルニ大聖堂ファサード  
Gaetano Coppoli, Facciata del Duomo di Terni.



図 23b コッラード・ヴィーニ《アッシジの聖  
フランチェスコ》、テルニ、大聖堂  
C. Vigni, *San Francesco d'Assisi*, 1937. Terni,  
Duomo.



図 23c コッラード・ヴィーニ《聖ペレグリス  
ス》、テルニ、大聖堂  
C. Vigni, *San Pellegrino*, 1937. Terni, Duomo.



図 23d コッラード・ヴィーニ 《聖女アガベ》、テルニ、大聖堂  
C. Vigni, *Sant'Agape*, 1934. Terni, Duomo.



図 23e コッラード・ヴィーニ 《聖ウァレンティヌス》、テルニ、大聖堂  
C. Vigni, *San Valentino*, 1934. Terni, Duomo.



図 23f コッラード・ヴィーニ 《聖アナスタシウス》、テルニ、大聖堂  
C. Vigni, *Sant'Anastasio*, 1934. Terni, Duomo.



図 23g コッラード・ヴィーニ 《聖女ドンニーナ》、テルニ、大聖堂  
C. Vigni, *Santa Donnina*, 1937. Terni, Duomo.



図 23h コッラード・ヴィーニ《聖プロクロス》、テルニ、大聖堂  
C. Vigni, *San Procolo*, 1937. Terni, Duomo.



図 23i コッラード・ヴィーニ《聖ガブリエーレ・デッラッドロラータ》、テルニ、大聖堂  
C. Vigni, *San Gabriele dell'Addolorata*, 1934. Terni, Duomo.



図 24a パオロ・ロッシ・デ・パオリ《全国社会保障機構会館》、ボルツァーノ、ヴィットーリア広場  
Paolo Rossi de Paoli, *Palazzo dell'INPS*, 1935-37. Bolzano, Piazza della Vittoria.





図 24b コッラード・ヴィーニ《統帥讃歌》、ボルツァーノ、全国社会保障機構会館  
C. Vigni, *Inno al Duce*, 1935-37. Bolzano, Palazzo dell'INPS.



図 24c 同 部分  
Particolare della fig.24b.



図 24d 同 部分  
Particolare della fig.24b.





図 24e 同 部分  
Particolare della fig.24b.



図 24f 同 部分  
Particolare della fig.24b.



図 24g 同 部分  
Particolare della fig.24b.



図 25a コッラード・ヴィーニ 《労働の情景》、ナポリ、全国保険機構会館  
C. Vigni, *Scena dei lavori*, 1933-38. Napoli, Palazzo dell' INA (Piazza Carità).



図 25b 同 部分  
Particolare della fig.25a.



図 25c 同 部分  
Particolare della fig.25a.





図 25d 同 部分  
Particolare della fig.25a.



図 25e 同 部分  
Particolare della fig.25a.



図 26a 《アンドレア・バリオーニ墓碑》、フィレンツェ、トレスピアーノ墓地  
C. Vigni, *Sepolcro di Andrea Baglioni*, 1938.  
Firenze, Cimitero di Trespiano.

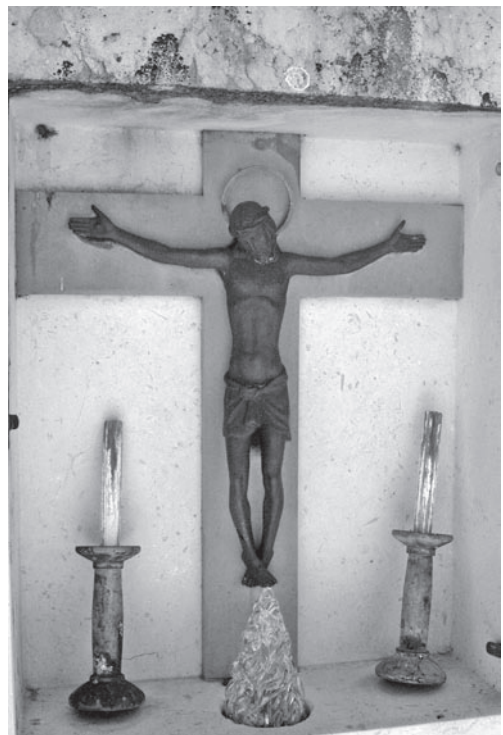


図 26b 同 部分 (コッラード・ヴィーニ《キリスト磔刑》)  
Particolare della fig.26a (C. Vigni, *Crocifisso*).



図 26c コッラード・ヴィーニ 《キリスト磔刑》部分  
C. Vigni, *Crocifisso*, particolare.



図 27b コッラード・ヴィーニ 《天秤を持つ大天使》、ミラノ、裁判庁舎  
C. Vigni, *Arcangeli con bilancia*, 1937-40. Milano, Palazzo di Giustizia.

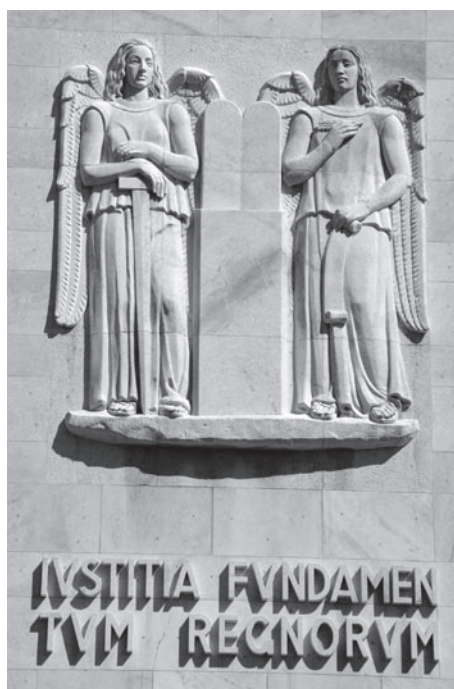


図 27a コッラード・ヴィーニ 《律法の板をもつ大天使》、ミラノ、裁判庁舎  
C. Vigni, *Arcangeli con le tavole della legge*, 1937-40. Milano, Palazzo di Giustizia.





図 28 コッラード・ヴィーニ《女性寓意像》、  
所蔵先不明  
C. Vigni, *Figura allegorica* per la Società T.E.T.I.,  
1940. Ubicazione ignota.



図 29 コッラード・ヴィーニ《帝国水道 5 月 5 日》、  
所蔵先不明  
C. Vigni, *Acquedotto Imperiale IX Maggio*, 1940.  
Ubicazione ignota.



図 30 コッラード・ヴィーニ《聖家族》、ローマ、アウグスト・インペラトール広場  
C. Vigni, *Sacra Famiglia*, ante 1941. Roma, Piazza Augusto Imperatore.



図 31a 全国保険機構会館、ピアチェンツァ  
Palazzo dell'INA. Piacenza, Piazza Cavalli.



図 31b コッラード・ヴィーニ 《騎馬群像》、ピアチェンツァ、全国保険機構会館  
C. Vigni, *Un gruppo di famiglia*, ante 1942. Piacenza, Palazzo dell'INA.



図 32a コッラード・ヴィーニ《教皇ピウス十二世》、ローマ、ヴァティカン歴史博物館  
C. Vigni, *Busto di Pio XII*, 1942. Roma, Museo Storico Vaticano



図 32b 同 部分  
Particolare della fig.32a.



図 32c 同 部分  
Particolare della fig.32 .





図 33a コッラード・ヴィーニ 《受胎告知と七つの慈善行為》

C. Vigni, *L'annunciazione e Opere della Misericordia*, 1943. Bodio Lomnago, Chiesa di San Giorgio.



図 33d コッラード・ヴィーニ 《聖母、聖ゲオルギウス、聖ロクス》

C. Vigni, *Madonna fra i santi Giorgio e Rocco*, 1943. Bodio Lomnago, Chiesa di San Giorgio.





図 33b 図 33a の部分  
Particolare della fig.33a.

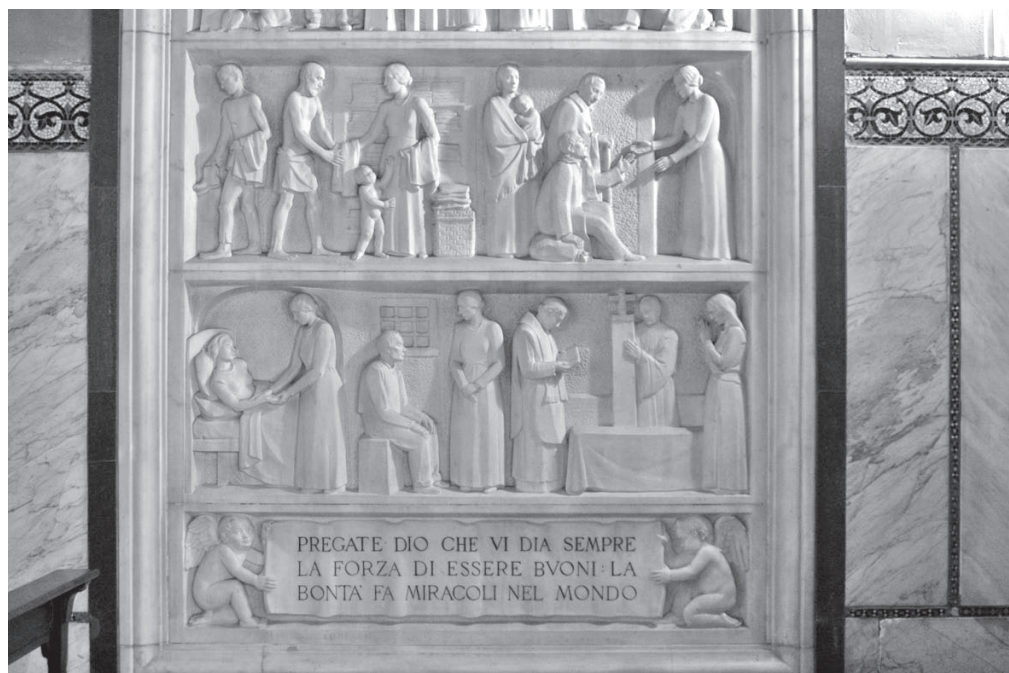


図 33c 図 33a の部分  
Particolare della fig.33a.



図 34a コッラード・ヴィーニ《聖ニコラス・フォン・フリューエ》、ローマ、サンテウジェニオ聖堂  
C. Vigni, *San Nicolao da Flue*, 1943/50. Roma, Chiesa di Sant'Eugenio.

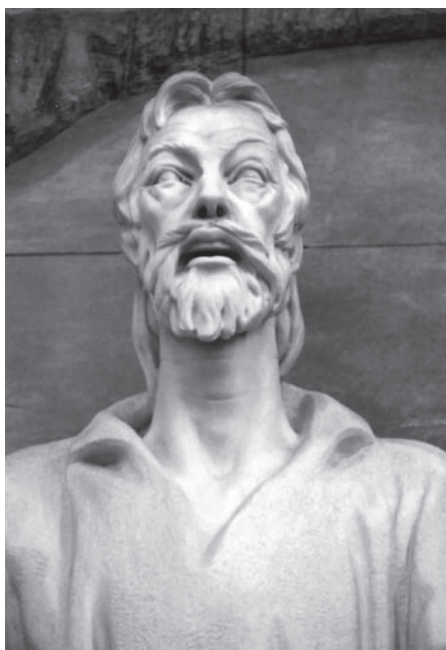


図 34b 同 部分 (《聖ニコラス・フォン・フリューエ》頭部)  
Particolare della fig.34a.



図 34c 同 部分 (裾浮彫)  
Particolare della fig.34a (predella).



図 34d 裾浮彫 部分 (《家長時代の聖ニコラス》)  
Predella, particolare (*San Nicolao da Flue come padre di famiglia*)



図 34e 裾浮彫 部分 (《判事時代の聖ニコラス》)  
Predella, particolare (*San Nicolao da Flue come giudice*)



図 34f 裾浮彫 部分 (《隠修士聖ニコラスの祈り》)  
Predella, particolare (*Preghiera di san Nicolao da Flue eremita*)



図 35 コッラード・ヴィーニ (トル  
ヴァルセンの模刻) 《洗礼を施す天使》、  
アイスランド、アークレイリ聖堂  
C. Vigni (copia da Thorvaldsen), *Angelo  
battezzante*, 1952. Akureyri Churchi





図 36a コッラード・ヴィーニ《聖母子と天使たち》、ヴェローナ、クオーレ・インマコラート・ディ・マリア聖堂  
C. Vigni, *Madonna sorretta da angeli*, 1952.  
Verona, Chiesa del Cuore Immacolato di Maria.



図 36b 同 部分 (《聖母子》)  
Particolare della *Modonna sorretta da angeli* (*Madonna col Bambino*)



図 36c 同 部分 (天使たち)  
Particolare della *Modonna sorretta da angeli* (angeli)



図 36d 同 部分 (天使たち)  
Particolare della *Modonna sorretta da angeli* (angeli)



図 36e 同 部分 (天使たち)  
Particolare della *Modonna sorretta da angeli* (angeli)



図 37 コッラード・ヴィーニ《聖母子》、  
フィレンツェ、パンザーニ通り  
C. Vigni, *Madonna col Bambino*, 1955.  
Firenze, via Panzani.



参考図 《コッラード・ヴィーニ墓碑》、フィレン  
ツェ、ポルテ・サンテ墓地  
*Sepolcro di Corrado Vigni*. Firenze, Cimitero delle  
Porte Sante.